SALTIGA

DAIWA FISHING TACKLE 2021

BREAK YOU

夢を掴み獲れ

UR RECORD

SALTIGA
LINE UP 2021

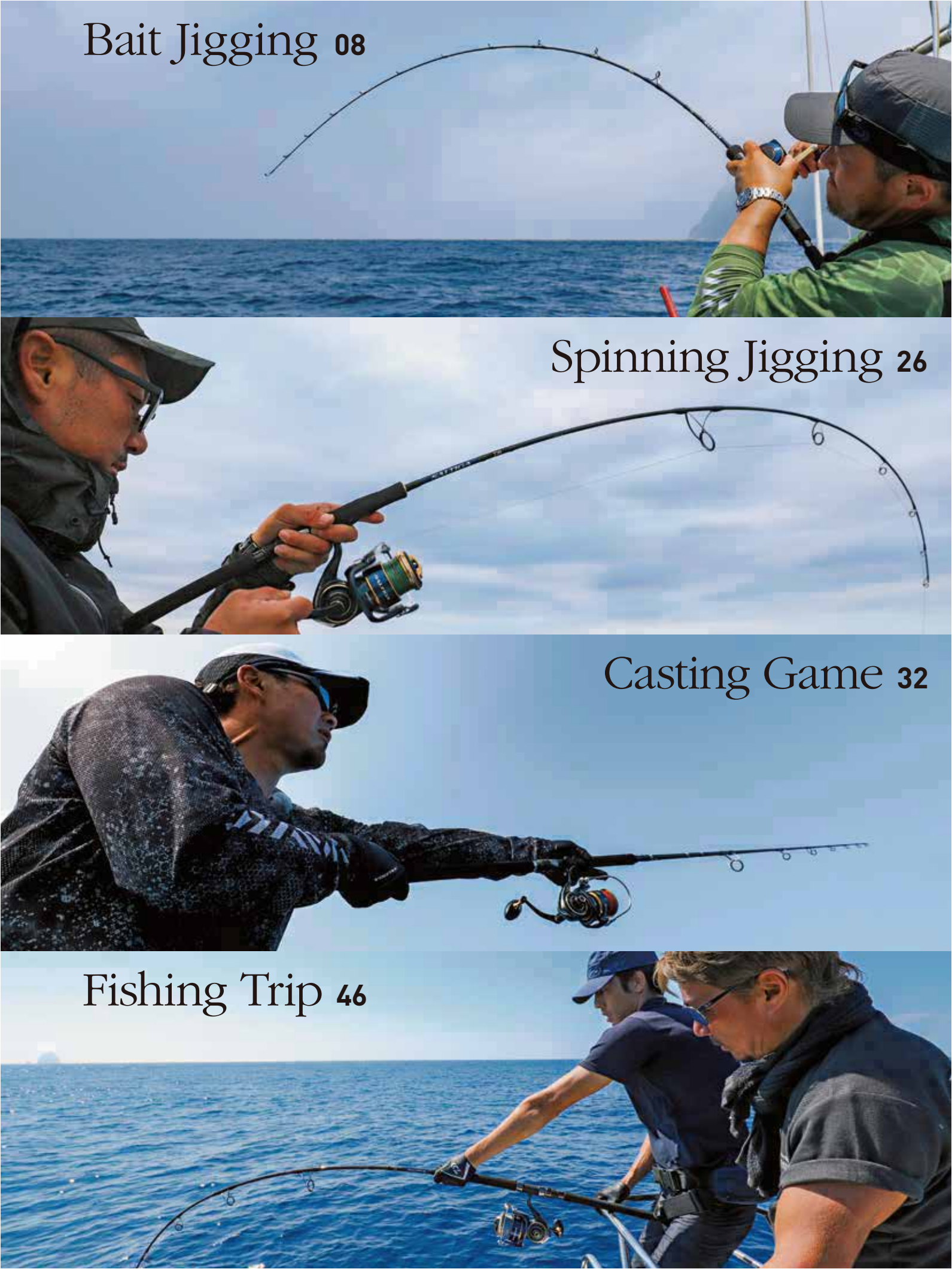
オフショアフィッシングには未知なる夢がある。
さまざまな発見とともに
見たことのないような大型の魚、
味わったことのない力強い突っ込みをみせる魚、
釣り上げることで癒される魚、
まだ手にしたことのない魚との出会い。
そんな魚たちと対峙した時、より快適に、
より有利に楽しむためにSALTIGAはある。
そしてSALTIGAは進化し続ける。
秘めたるは「BREAK YOUR RECORD」の魂。
すべてのオフショアアングラーに、至高の釣りを。

Bait Jigging 08

Spinning Jigging 26

Casting Game 32

Fishing Trip 46



ため。ラインスラックがなければ、根掛かりを回避でき、魚のアタリも取りやすくなります。情報量も増えます。スピニングはサミング（フェザリング）する際は両手を使わなければなりませんが、ベイトは片手でできます」

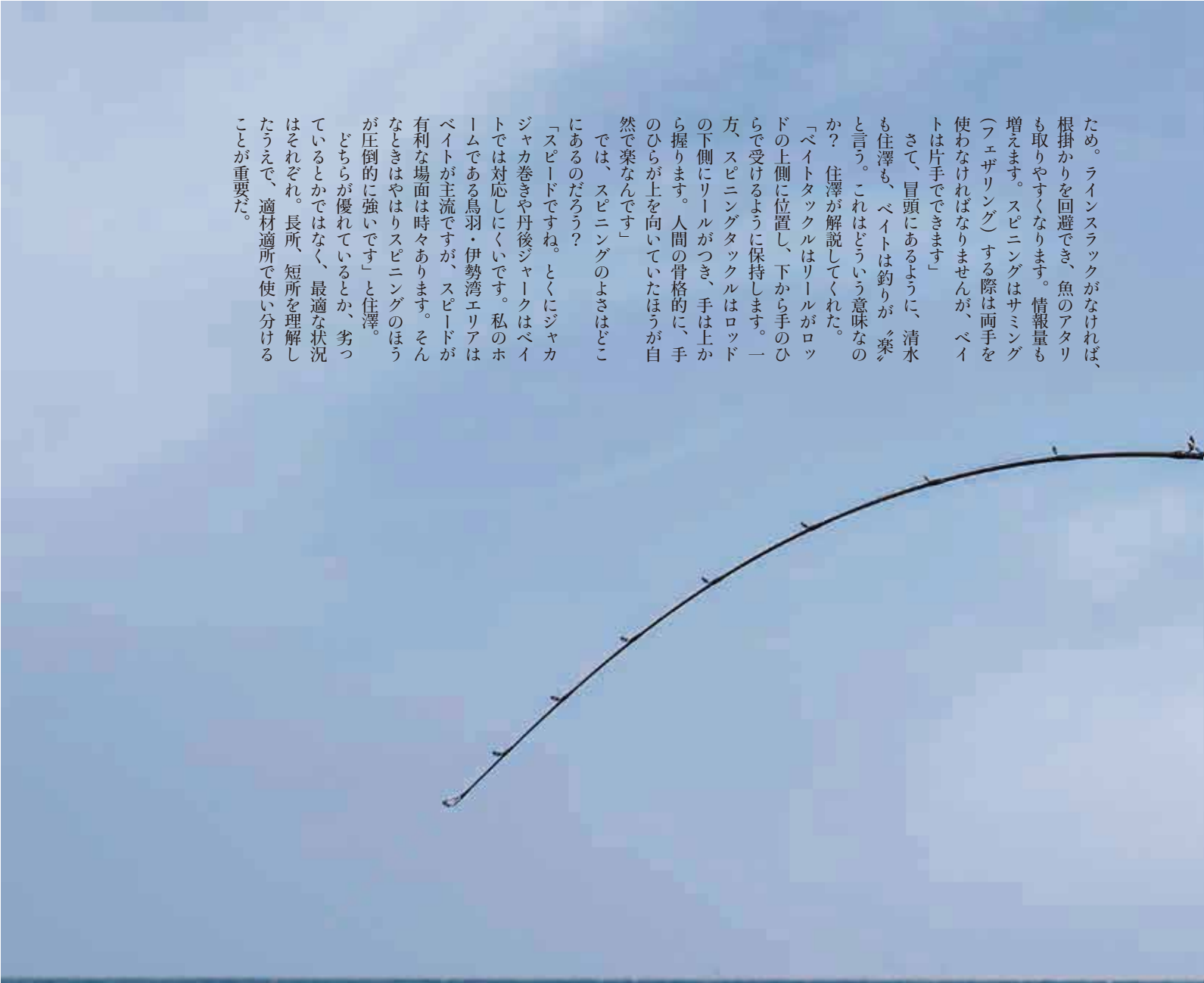
さて、冒頭にあるように、清水も住澤も、ベイトは釣りが〝楽〟と言う。これはどういう意味なのか？　住澤が解説してくれた。

「ベイトタックルはリールがロッドの上側に位置し、下から手のひらで受けるように保持します。一方、スピニングタックルはロッドの下側にリールがつき、手は上から握ります。人間の骨格的に、手のひらが上を向いていたほうが自然で楽なんです」

では、スピニングのよさはどこにあるのだろう？

「スピードですね。とくにジャカジャカ巻きや丹後ジャークはベイトでは対応しにくいです。私のホームである鳥羽・伊勢湾エリアはベイトが主流ですが、スピードが有利な場面は時々あります。そんなときはやはりスピニングのほうが圧倒的に強いです」と住澤。

どちらが優れているとか、劣っているとかではなく、最適な状況はそれぞれ。長所、短所を理解したうえで、適材適所で使い分けることが重要だ。



なぜベイトリールを使うのか――？
ジギングのタックルには、大きく2種類しか存在しない。
スピニングか、ベイトか、だ。
それぞれに特徴があり、メリット、デメリットがある。
ここでは、二人のジギングエキスパートに
ベイトジギングの魅力と利点について話を聞いた。

Bait Jigging

パワフルな巻きと、手元に伝わる圧倒的な情報量で常に主導権を！

「スピニングに比べてパワーがあり、楽なこと。そして、フォールのアタリが取りやすいこと。ベイトリールを使ったジギングの魅力や利点は、これに尽きるのではないでしょうか」

ふたりのエキスパートは、そう口を揃えた。ひとりは、スロージギングのエキスパート、清水一成。もうひとりは、ライトジギングの名手、住澤直樹だ。

「ベイトリールは、スプールが回転する方向と釣り人がハンドルを回す方向軸が同じ。そのため、釣り人が加えた力を、ギアを通して最大限にスプールの回転として伝えてくれます。トルクがあるんです。そしてその構造は、感度にも直結します。リールから伝わる情報量が多いんです。このような理由から、スロージギングではベイトを使います」と清水。

さらに、今さらいうまでもなく、スローはフォールメインの釣りであり、フォールのアタリも多い。

「ベイトはそのアタリを取りやすく、またすぐにアワせることができます。スピニングではなかなかそのようにはいきません」

住澤が付け加える。

「もっと言えば、ベイトはサミングを行いやすいという特徴もあります。サミングの目的は、極力ラインスラックを出さないようにする

いファイトを推奨しているものが世の中には多い。高弾性であるため、強く曲げれば折れる可能性があるからだ。

そこにも清水のリクエストである〝ブチ曲げたい〟という声にDAIWAは耳を傾けた。「ソルティガSJシリーズ」という〝チューブラーでもしっかりと曲げてファイトできる〟という従来のスロー用ロッドの常識をガラリと覆したのだ。

そんな、まさに異色ともいえるスロージギング用ロッドを世に送り出したDAIWAが、2021年、再び特異なロッドを世に送り出す。それが、「ソルティガSJ AGS TG（スリルゲーム）」である。

「このロッドには、私のこれまでの経験と、思惑がすべて詰まっています。それほどこのロッドの開発には強いこだわりと思い入れがあります」と清水は言う。

特徴は大きく2つ。ひとつは、TG（スリルゲーム）と冠していることからも分かるように、素材がカーボンフルソリッドであること。さらに外層にはバイアス構造のカーボンを巻き付け、ネジレにもめっぽう強い。

「フルソリッドの最大の魅力は、折れにくいこと。それゆえ、しっかりと曲げたパワーファイトが楽しめます。ターゲットは、カンパチ、ヒラマサ、マグロといった青物類です」

もうひとつの特徴は、長さがなんと5ft5inと超ショートとなっていること。

「従来のロッドの長さでは、青物攻略で多用する速い上げのしゃくりが行いにくい。なぜなら、フォールの距離をできるだけ長く取ることを狙いとしているため、曲がりの支点を手前に持ってくることでブランクの振り幅を稼いでいるからです」

つまり、従来のコンセプトのロッドで速いしゃくりを行うと、アングラーの手首にもの凄い負担がかかってしまい、しゃくり続けることが難しくなる。

「青物に主眼を置いて上げの釣りをキビキビとテンポよく行えるようにするためには、支点は真ん中あたりが理想。ただ、私は〝疲れない〟ということを大切にしているので、それを実現させるために、長さをスロー用としては異色の5ft5inと短くしました」

ただ、である。

「ソリッド素材のロッドは粘り重視のブランクで〝返らない〟ということになります。これでは理想的なジグのアクションが出せません。この長さで実現するのが一番苦労しまして、随分プロトを作成してもらい、繰り返しテストしましたね」

パーツ類にもとことんこだわった。ガイドには軽量かつ高剛性のAGSを採用し、既出シリーズよりもガイドサイズを大型化。さらにはガイドリングを薄型のコバルトリングにすることで、太いラインを使った際の抜けをよくしている。これにより、AGSによる感度アップがもたらす情報量の増加にくわえ、ガイド自体が軽いことによるティップの返りの速度アップにもつながった。

「極限まで鍛え上げた身体能力を持つ、まるでアスリートのようなロッドに仕上がりました。ダイワが誇る最先端テクノロジーのカタマリともいうべき、究極の相棒です」と清水は声を大にして話す。

ラインナップは、#3と#4の2アイテム。

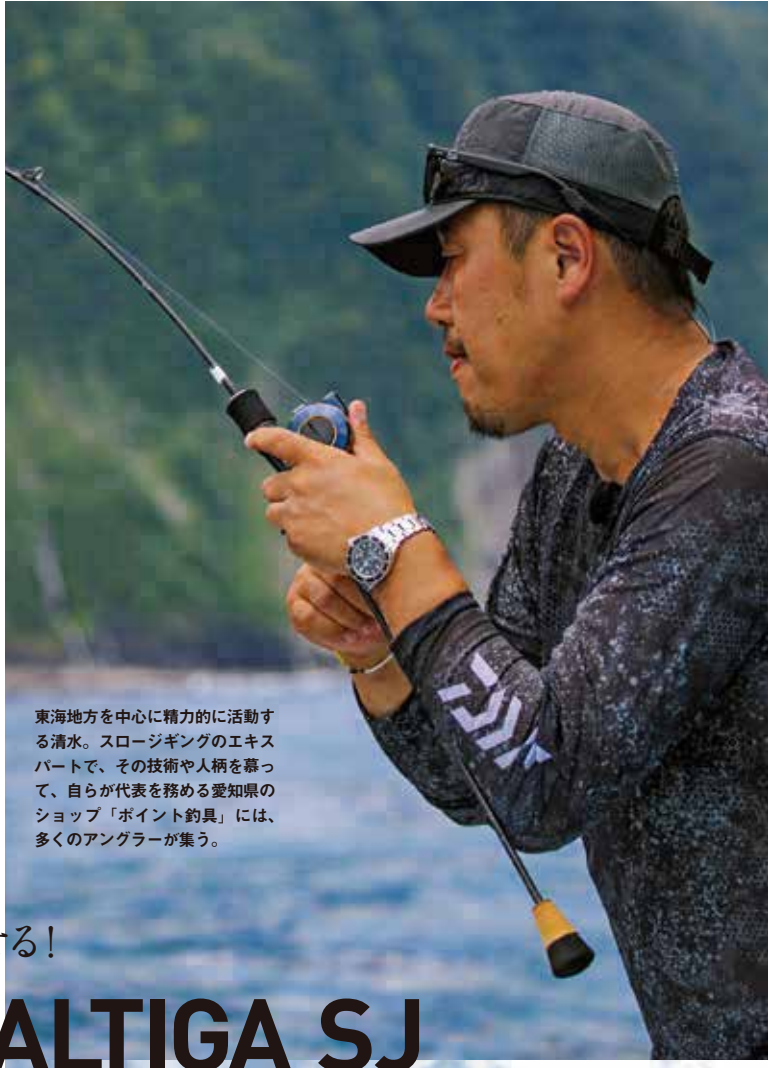
「#3は、表示は#3ですが、実際にしゃくった感じは#3・5ぐらいのパワーです。#4は#4・5ほどになっています。PE3号の#3、4号の#4というイメージで使っていただけたらと思います」

清水が「ソルティガSJ」に組み合わせたリールは、なんと300番サイズ。これで300m以上ラインを出して青物を狙う。ロッドもリールも性能が劇的に進化している。

こだわりの最新ロッド、リールでスローの世界が大きく変わる！

ロッドのみならず、リールの小型軽量高性能化は釣りの可能性を大きく広げ、釣り人にとっては非常に大きなアドバンテージとなる。

マダイもこのサイズとなれば、走りはまるで青物だ。



東海地方を中心に精力的に活動する清水。スロージギングのエキスパートで、その技術や人柄を慕って、自らが代表を務める愛知県のショップ「ポイント釣具」には、多くのアングラーが集う。

海中の様子を感じ取り、アレンジして喰わせる！

Jigging [Slow] × SALTIGA SJ 清水一成 Impression

Kazunari Shimizu

“軽量コンパクト、頑丈、巻き上げパワーと軽さ”
求められる基本性能のその先を行くベイトリール「SALTIGA IC」。
“高感度&しっかり限界まで曲げてファイトできる”
異色のスロージギングロッド「SALTIGA SJ AGS TG（スリルゲーム）」。
2019年～本気でスロージギングに取り組んだDAIWAが、
アングラーの新たな相棒として
画期的なリールとロッドを世に送り出す。

「スロージギングは〝なぜいま釣れたのか？〟をきちんと説明できる釣り。釣れたのではなく、釣った。その価値観の違いは凄く大きいと思います。アングラー側に主導権があり、すべてが必然です」そう話すのは、スロージギングのエキスパート、清水一成だ。

「タックルとしゃくりをそのときの海況に合わせていく、その過程で気持ちよくしゃくれる瞬間が必ず訪れます。この〝抜け感〟なら釣れる、と。そういった感じで、魚が反応するパターンを探していく、そこがスロージギングの最大の魅力だと思っています」

ひとつのターゲットを狙う際であっても、リール・ロッドを変え、ラインやリーダーの号数を変えていく。ジグも同様で、組み合わせは数え切れないほどだ。そのなかから、そのときに釣れるセッティングを、一つひとつ、まるで答え合わせをするかのように探し出していく。

「タックルがそのときの状況に合った瞬間、魚が反応してきます。これは、どこのエリア＝海に行っても通じること。こんなところも、スロージギングの面白いところです」

答え合わせの過程の中で、タックルは信頼のおけるものが前提条件となる。清水がリールに求めたのは〝海中を感じ取れる〟モノであること。

「ハンドルを回し巻き続ける動作が当たり前ですから、楽に巻けることをひたすら目指しましたね。そういうリールでのジギングは実際のところ集中力も増すし、必然的に海中の様子をイメージしやすくなります。ハンドル周りも然り。常に手を掛けている部分ですから。ハンドルノブの使用感もとことん突き詰めたところです」清水は熱く語る。

アングラーを代表して熱い想いをDAIWAに届け、数々のテクノロジーでDAIWAは具現化した。その部分については、後のページでたっぷりと解説されているのでぜひご覧いただきたい。

また、ロッドについて。曲げな

ソルティガR J62B-3 LOによるしっかりとしたワンピッチにブリが反応する

リールの性能が飛躍的に進化し、2日間撮影を行ったが200gのジグをしゃくり続けられた、と住澤。「このリールはカウンターばかりに目が行くと思いますが、パワーと巻き心地は本当に凄いものがあります」。

「ロッドが釣れるアクションをオートマチックに演出してくれます」。昨今のジギングは、ロッドの“レスポンス”が重要なキーワードだ。

ひとつ疑問を感じていた。当時は高弾性ロッドが主流だったのだ。ジグの動きではなくシルエットに食って来ているのだから、そのようなロッドは必要ないと住澤は考えていたのである。

一方で、鳥羽でも湾内と呼ばれるエリアと湾の外ではベイトが異なる。湾内は小型のベイトが主でTGベイトが強いが、湾外はタチウオ、カマス、イカなど、ベイトは長細かったり湾内よりサイズが大きめだったりする。

「そんなときは、ロングやセミロングジグが有効です。また、船はドテラではなく、風に立てて流しますので、アクションはしっかりとしたワンピッチが主流。それを高弾性ロッドで行うと、ジグがスライドしすぎてしまい、動きが激しいために小型のハマチが先に食ってしまうんです」

また、ジグがスライドするということは、フォールする。このフォールにサワラが反応し、リーダーカットされる確率が高くなってしまうという。

「ついにソルティガR 62B-3 LOが登場します。これも革命になると思いますね。なぜなら、このロッドでしっかりとしたワンピッチジャークを行うと、初速はスローながら、後からヒュッと伸びるようなアクションとなります。この動きにブリが反応するんです。さらに、このモデルは、ティップ、ベリー、バットという3部位の強弱がしっかりとついていて、ティップはしなやかで、ベリーからバットにかけては適度な張りを持たせてあります。そのため、ジグの操作が非常に行いやすいというのも大きな特徴です」

住澤によると、ティップのしなやかさでジグの重みを消してやり、ベリーに乗せてバットでしゃくるよう意識すると良いそうだ。

「こうすることで、ジグの飛びが抑えられ、ロッドが釣れるアクションをオートマチックに演出してくれます。しかも、バットでしゃくるのでアングラーは疲れません。しっかりとしたワンピッチを一日続けられるロッドに仕上がっています」

もう一本、ソルティガRに登場するベイトモデルが「62B-2 TG（スリルゲーム）」である。

「このロッドはフルソリッドだけに非常にしなやかなので、重めのジグを長時間しゃくり続けても疲れません。魚を掛けてからもバラしにくく、何よりもファイトが楽しい。ロッドが大きく曲がるのは本当に気持ちがいいですよ」

アクションのコツとしては、ロッドを下向きにしてしゃくればショートジグでも跳ねさせることはなく、水平方向でしゃくればジグを飛ばすようなアクションも可能、と住澤。ロッドの角度を変えることにより、異なる演出が可能だ。

「伊勢湾・鳥羽エリアのみならず、昨今のジギングはロッドの〝レスポンス〟が大きなキーワード。ぜひこの〝R〟を使っていただきたいと思います。きっと、釣果が大きく変わります」

釣れるアクションをオートマチック&自在に演出!

Jigging[Bait]×SALTIGA R 住澤直樹Impression

Naoki Sumizawa

金属のカタマリであるジグに命を吹き込むのが、アングラーの動作とロッドの個性だ。
アングラーの動きが同じであるなら、ロッドの個性が変われればジグの動きも変わる。
「SALTIGA R(レスポンス)」は、それを具現化した画期的なシリーズだ。
2021年、待望のベイト2機種が追加となる。

伊勢湾・鳥羽エリアをホームとする住澤直樹。ボートエギングのエキスパートとしても知られるが、ジギングも造詣が深い。そんな住澤はスーパーライト以外のジギングでは8割がベイトタックルだという。

「私のホームフィールドである伊勢湾・鳥羽エリアでジギングが大ブレイクしたのは、TGベイトが発売されたのがキッカケです」とは、ライトジギングの名手、住澤直樹だ(伊勢湾・鳥羽エリアにおけるジギングターゲットは数あれど、ここではブリで話を進めていく)。

住澤によると、ベイトは季節にもよるがカタクチイワシ、小型のマイワシ、サッパがメイン。最近はあまり獲れなくなったがコウナゴもいる。どれも小型のベイトフィッシュだ。

「それらにTGベイトがまさにマッチ・ザ・ベイトでした。大げさではなく、釣果は10倍になりました。これはまさに革命でしたね。その理由は、動きというよりは、シルエットだと思っています」

釣果は10倍になったが、住澤は

R
for Jigging [Bait]

軽量、高強度を両立させた次世代のジギングロッドのソルティガRにベイトモデルが追加された。“戦略的なレスポンス（Response=R）の使い分け”というコンセプトはそのままに、2号クラスのTG（スリルゲームコンセプト）と3号クラスのLO（ローレスポンス）を設定した形だ。スピニングに加え、弾性率の異なるベイトモデルを使い分けることでジャークパターンやジグの形状にアジャストした自在なゲーム展開を快適にサポート。近海の青物狙いはますますシステマチックになる。

SALTIGA R J62B-2 TG NEW

ローレスポンスのフルソリッド軽量ベイトモデル。フルソリッド特有の粘りとしなやかさはセミロングジグやタングステン素材のコンパクトジグによるワンピッチジャークが得意。湾内から近海まで、PE1.5～2号を用いた釣りに幅広く対応する。またベイトならではのレンジコントロール性を活かし、食い渋ったターゲットにジグをじっくり見せることも可能。フッキング後はしっかり曲がり込み、ファイトそのものを純粋に楽しめる。

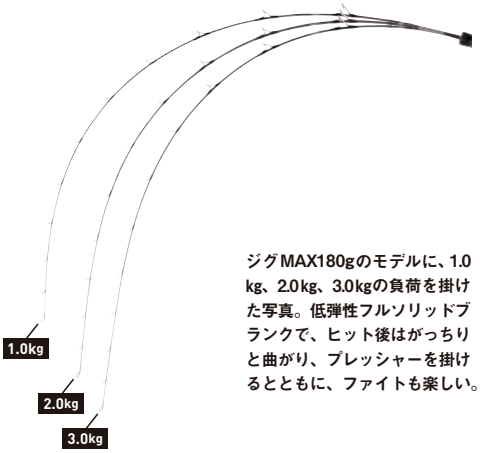
SALTIGA R J62B-3 LO NEW

ワンピッチジャークメインのジギングに対応するローレスポンス軽量ベイトモデル。PE2～3号ラインでブリを狙うために開発したこのロッドは低弾性ブランクを採用し、最も多用されるワンピッチジャークにおいてジグの不規則な動きを抑え、ナチュラルなアクションを出せるように設計。体への負担も少なく、ヒット後は粘りのあるブランクがブリの引きをロッド全体で受け止めてバラシを防ぎ、安心してやり取りを楽しめる。

ガイドはKガイドシステムをベースに、ブランクの特性を最大限に引き出す位置と個数を突き詰めてセッティング。もちろんリングの内径も、各ゲームに必要な条件を考慮して糸抜けの良さと暴れを抑えるバランスを割り出している。

エアセンサーシートを採用することで大幅な軽量化を追求したスピニングに対し、ベイトモデルのグリップにはSALTIGA BJでも好評のPULSを採用してホールド性を重視。しっかり握り込むことで確実なジグアクションが期待できる。

※写真はSALTIGA R J62B-2 TG



ジグMAX180gのモデルに、1.0kg、2.0kg、3.0kgの負荷を掛けた写真。低弾性フルソリッドブランクで、ヒット後はがっちりと曲がり、プレッシャーを掛けるとともに、ファイトも楽しい。

ソルティガ R Bait 3月発売予定 NEW

品名	全長(m)	継数(本)	仕舞(cm)	自重(g)	先径/元径(mm)	ジグ重量(g) ジギング	ライン PE(号)	カーボン含有率(%)	価格(¥)	JANコード
J62B-2 TG	1.88	1	188	160	1.6/7.4	MAX180	MAX 2	97	52,000	3 067662※
J62B-3 LO	1.88	1	188	160	2.2/11.9	MAX220	MAX 3	93	51,000	3 108389※

※竿径は、竿先から最も近く、部品・糸巻きのついていない外径、( )内は素材先端部の外径です。
元径は、竿種により測定部が異なるためWebにてご確認ください。
※価格はメーカー希望本体価格（税抜）です。◎赤字は、3月発売予定の新製品です。

SJ
for Jigging [Slow]

HVFナノプラスを採用することで、贅肉を極限までそぎ落とし、軽量なブランクを実現した次世代スロージギングロッド、ソルティガSJ。そのSJシリーズに加え、新たなシリーズ展開としてソルティガSJ AGSが加わった。高弾性でありながら、高強度を実現させたフルソリッドブランクのTGシリーズで、短めのブランクに軽量かつ高剛性の『AGS』を装備。これにより、操作性と感度を大幅に向上させており、スロー＆フォールの動きに反応しない魚に対し、フォールを入れず、上げのハイピッチジャークで食わせるための運動性能を高めたモデルだ。フルソリッドならではの高強度で、ヒットさせてからも安心してブチ曲げファイトを堪能できる。

SALTIGA SJ AGS 55B-3 TG NEW

青物から根魚、アカムツまで対応の定番モデル。5.5フィートと短めのブランクに軽量かつ高剛性の『AGS』を装着し、操作性と感度を大幅に向上。スロー＆フォールの動きに反応しない魚を上げのハイピッチジャークで食わせる。ヒット後はフルソリッドの特性を活かしたブチ曲げファイトを堪能。

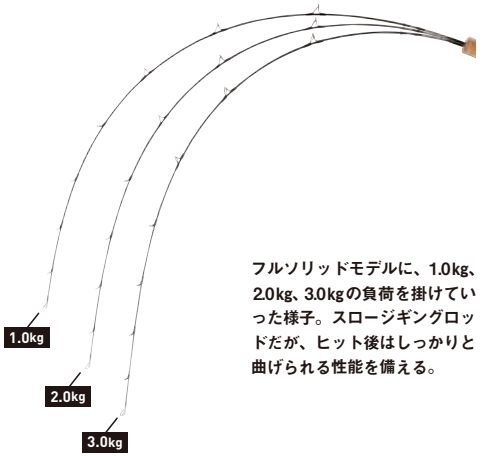
SALTIGA SJ AGS 55B-4 TG NEW

青物をメインにカンパチやマグロとも勝負できる大型魚専用ロッド。そのため#3よりもワンランクパワーアップし、ガイドサイズも上げて太糸に対応。魚がヒットした後はフルソリッドならではの高強度で安心のブチ曲げファイトを展開。5.5フィートのレングスも相まって感動的な出会いを演出する。

※写真はSALTIGA SJ AGS 55B-3 TG

無駄を省いた軽量のグリップ。パーツにもこだわり、リールシートはFuji製のPULSシートを採用。丸型リールとの相性が良く、ホールド性に優れるため、リールを握り込んで使うことが多いスロージギングの釣りにベストマッチ。

軽量・好感度のエアガイドシステム『AGS』を搭載し、わずかな信号もダイレクトに伝える。感度が求められるスロージギングにおいて、『AGS』だからこそ、到達可能な世界を提案。



フルソリッドモデルに、1.0kg、2.0kg、3.0kgの負荷を掛けていった様子。スロージギングロッドだが、ヒット後はしっかりと曲げられる性能を備える。

ソルティガ SJ AGS 5月発売予定 NEW

品名	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	ジグ重量(g) ジギング	ライン PE(号)	カーボン含有率(%)	価格 (¥)	JAN コード
AGS 55B-3 TG	未定	1	未定	未定	未定	150～260	1.0～2.5	未定	未定	2 067822*
AGS 55B-4 TG	未定	1	未定	未定	未定	200～330	1.2～3.0	未定	未定	2 067839*

ソルティガ SJ

品名	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	ジグ重量(g) ジギング	ライン PE(号)	カーボン含有率(%)	価格 (¥)	JAN コード
61B-0	1.85	1	185	98	1.7/8.4	60～100	0.4～1.0	90	51,000	2 317986*
61B-1	1.85	1	185	98	1.7/8.4	90～150	0.6～1.5	93	51,500	2 317993*
61B-2	1.85	1	185	100	1.8/8.9	120～200	0.8～2.0	98	52,000	2 118729*
61B-3	1.85	1	185	106	1.9/9.3	150～260	1.0～2.5	99	52,500	2 216357*
61B-4	1.85	1	185	113	2.2/9.9	200～330	1.0～3.0	99	53,000	2 216364*
61B-5	1.85	1	185	119	2.5/10.3	250～400	1.2～3.0	99	53,500	2 216371*
61B-6	1.85	1	185	125	2.7/10.7	300～500	1.5～4.0	99	54,000	2 216388*

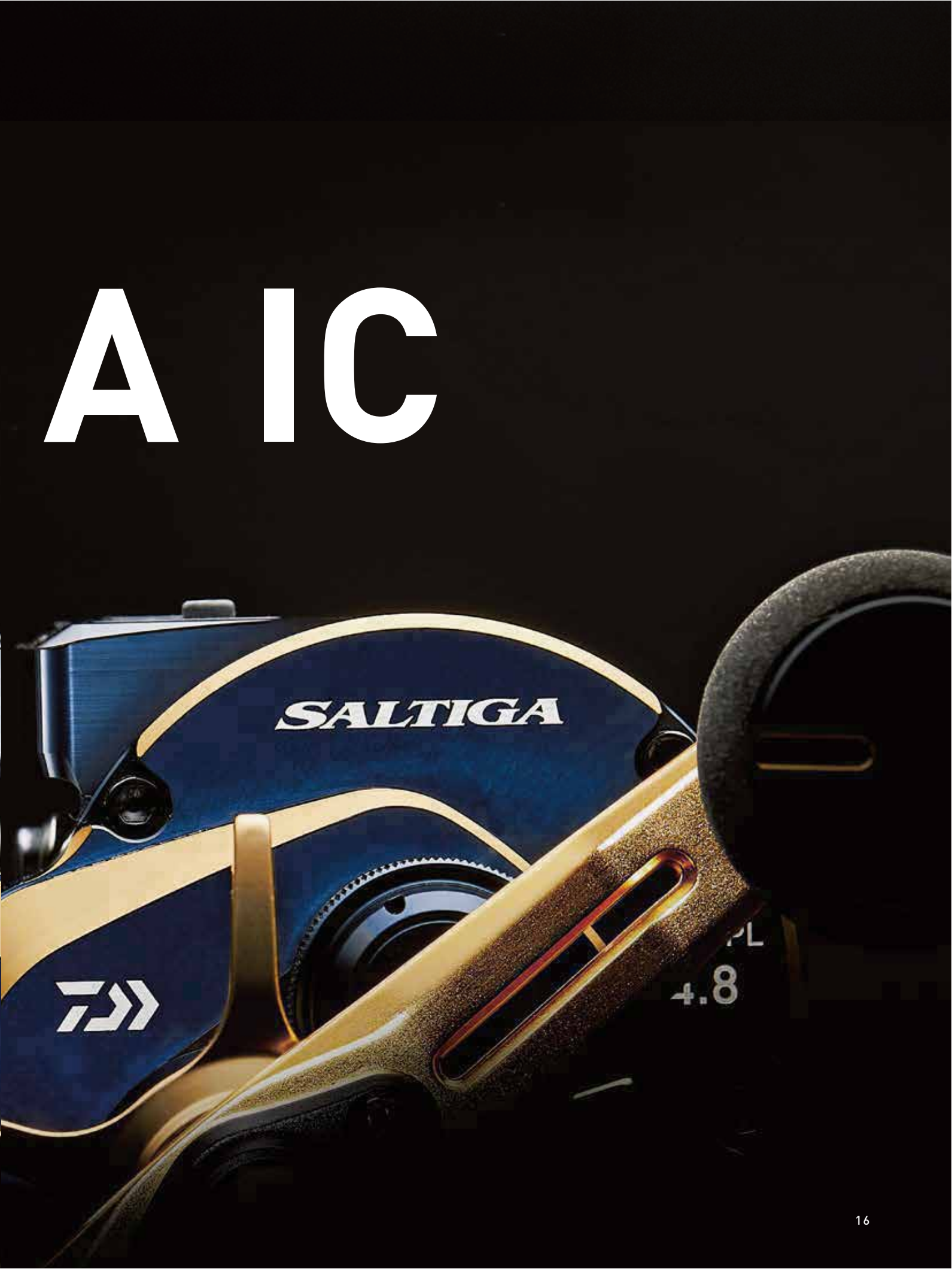
※竿径は、竿先から最も近く、部品・糸巻きのついていない外径、( ) 内は素材先端部の外径です。
元径は、竿種により測定部が異なるためWebにてご確認ください。
※価格はメーカー希望本体価格（税抜）です。◎赤字は、5月発売予定の新製品です。

SALTIG

常識の、その先へ。

あらゆるシーンで、
アングラーをサポートする道具であること。
「SALTIGA」の冠が付くタックルは、
そのような信頼を備えていることを意味する。
狙うターゲットにより寄り添えるように
最新技術を詰め込んだタックル。
2021年、さぁもっとディープなエリアへ。

A IC



［回転ノイズ比較］

巻き上げ時のギアノイズ（ハンドル回転時に感じるザラつきなど）の測定結果。振れ幅が小さいほどノイズが少ない。従来ギア比較で、ハイパードライブデジギアのノイズレベルは50%以下へと大幅に減少（当社比）。滑らかで静かな巻き心地を実現した。

HYPERDRIVE DESIGN 1

【ハイパードライブ デジギア】

HYPERDRIVE DIGIGEAR

いつまでも滑らか。
使い込むほど真価は判る。

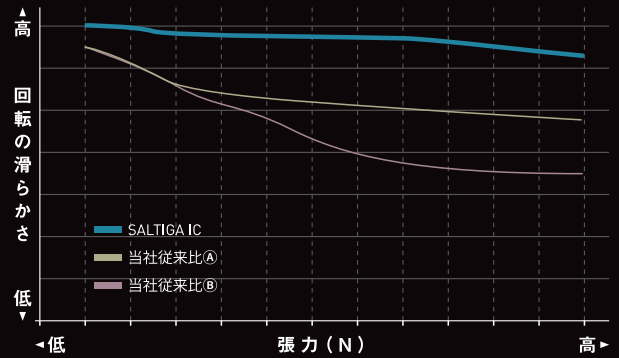
強く滑らかな回転が持続することを追求したベイト（両軸）リールにおける新設計ギアシステム。
ギアの歯のモジュール（大きさ）は耐久性に直結するから小さくしない。
手間を惜しまず、歯面をひとつひとつ精密に削り出す。だからガッチリと、滑らかに噛み合う。
初期の滑らかさが長く続くことを実現させたDAIWA独自のテクノロジー。

［ピニオンギアの進化］

従来ピニオンギアの耐食性試験結果　最新ピニオンギアの耐食性試験結果

ドライブギアと対になるピニオンギアは、ベイトリールにとってドライブギアに並ぶ要といえるほどの超重要パーツ。そのピニオンギアも劇的に進化した。ギア歯面は、ドライブギア同様に新諸元に刷新。併せて特殊素材を採用したことで、腐食、固着、欠損などのトラブルが激減。2枚の写真は、過酷な環境下を想定した試験結果。左の従来型の歯面には微細な塩溜まりが確認できる。この手の塩や砂粒の残留が、ゴリ感、ひいてはギアの歯欠の元なのだ。一方、右の新型の歯面には、塩溜まりは皆無。当然、ギアは長持ちする。

［回転耐久比較］



既存ベイトリールとの回転耐久性比較。こちらのグラフをご覧いただければ一目瞭然だろう。そもそも初期段階から滑らかな回転性能を発揮して、張力（＝高負荷や、使用時間による負荷の蓄積）による回転性能の低下量も極めて少ない。つまりHYPERDRIVE DESIGNによって、滑らかな回転性能と回転耐久性能を、極めて高いレベルで両立している。

初期性能が長く続くことを目指した設計思想

HYPERDRIVE DESIGN

強く、軽く、滑らかに。
DAIWA両軸リールの真・未来基準

駆動系

1 【ハイパードライブデジギア】
HYPERDRIVE DIGIGEAR

2 【ハイパーダブルサポート】
HYPER DOUBLE SUPPORT

耐久系

3 【ハイパーアームドハウジング】
HYPER ARMED HOUSING

4 【ハイパータフクラッチ】
HYPER TOUGH CLUTCH

最大4つのテクノロジーで構成

相乗効果で、過酷なフィールドでも安定した性能を発揮し続ける

HYPERDRIVE DESIGN 4

【ハイパータフクラッチ】

HYPER TOUGH CLUTCH

固着しにくく作動し続けるクラッチシステム。

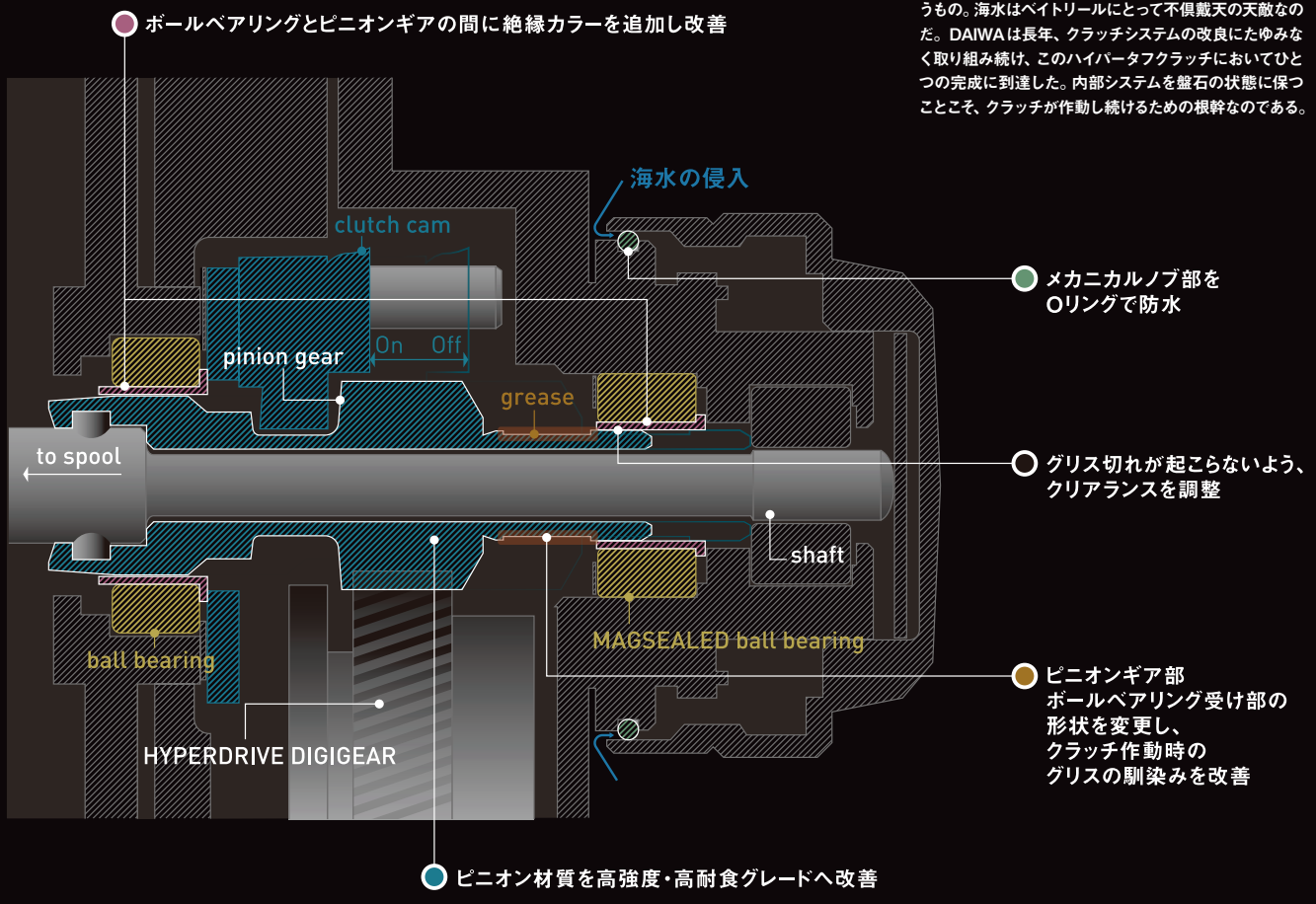
固着修理件数99%削減！（当社比）

※初代ソルトバリヤタフクラッチ発売２年間の比較における発生率

［高耐久クラッチ］

信頼は、ある日突然に「勝ち取る」のではなく、時間や歴史、時代を経て積み重ね続けるもの。海水域で使用するベイトリールにおいてトラブルレスを目指した結果、幾度となく稼働するクラッチON/OFFに耐え、作動し続ける高耐久クラッチ構造をついに実現。改良し続けることで見えてきた、キーとなるポイントを紹介しよう。一般的にクラッチというと、イメージされるのがクラッチレバー。これは一部のパーツに過ぎない。このレバーをON ⇔ OFFと切り替えることで、内部パーツが瞬時に稼働し、ピニオンギアとスプールとの切り離しまで連動するひとつなぎのシステムとなっている。つまりクラッチは、スプールフリーや巻上げの動作に移るための、まさしく駆動の要なのである。クラッチトラブルの主な原因は、スプールとボディフレームの隙間から浸入する海水によって内部のクラッチシステムが腐食や固着し、クラッチレバーが動作しなくなるというもの。海水はベイトリールにとって不倶戴天の天敵なのだ。DAIWAは長年、クラッチシステムの改良にたゆみなく取り組み続け、このハイパータフクラッチにおいてひとつの完成に到達した。内部システムを盤石の状態に保つことこそ、クラッチが作動し続けるための根幹なのである。

［クラッチシステム断面図（イメージ）］



※『MAGSEALED』『MAG SEALED』はDAIWA（グローブライド株式会社）の登録商標です。

HYPERDRIVE DESIGN

2

【ハイパーダブルサポート】

HYPER DOUBLE SUPPORT

巻上効率の向上。

滑らかさの持続と、巻きの軽さ。

[ピニオンギア支持構造]

ドライブギアのパワーをスプール回転へと変換する中間軸・ピニオンギアの支持構造、それが『HYPER DOUBLE SUPPORT』。ピニオンギアの両端を2つのボールベアリングで支持することで、回転フィーリング向上へつなげる駆動サポートシステムだ。ピニオンギア1点支持と比較すると、回転耐久性と共に、ハンドルから入力された回転パワーの伝達効率を大幅に向上可能だ。ピニオンギア自体もドライブギア同様に、強度面で様々な進化を遂げた結果、駆動部の耐久性を大幅に高めるに至ったのである。

HYPERDRIVE DESIGN

3

【ハイパーアームドハウジング】

HYPER ARMED HOUSING

ギアとスプールを強く高精度で支持。

ブレない、ガタつかない、たわまない。

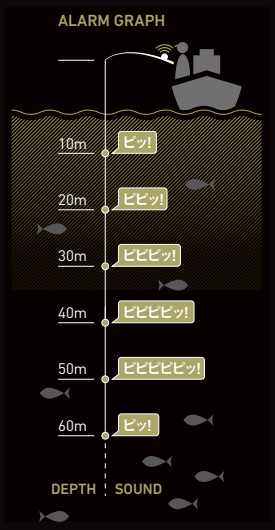
[堅牢な屋台骨]

HYPER ARMED HOUSINGとは、内部構造を高剛性、高精度でしっかりと支え、精緻な巻き心地とハイパワーを生む筐体システムを指す。条件としては、フレームに金属素材を用いること。さらにソルティガICでは、フレームに加え、両サイドプレート、セットプレートにもアルミニウム合金を採用。丸型ならではのマシンカット製法によるフル切削を施し、堅牢無比な超剛性を実現。

【ICカウンター】

IC COUNTER

見えない海中を精度高く掴む。



ICカウンター＋デプスアラームが繰り広げる新たなジギングシーンでは、海底の形状・水深把握力が飛躍的に向上。例えば、根回り、落ち込み、かけ上がりやかけ下がりなど、今まで感覚で対応していた海底形状の変化を視覚的に、更にはデプスアラームにより聴覚的に把握でき、的確なアプローチが可能。指示棚へ直撃も容易、かつ指示棚直前からのフォールでのアプローチなど様々な戦略が演出できる。

［ソルティガICカウンター機能］

10cm単位水深表示	深度に合わせてレベルカウント表示
デプス（深度）アラーム	10m毎にアラーム音を鳴らす機能
巻上速度表示	速度に合わせてレベルカウント表示
糸切れ一発補正	糸切れ時などのカウンター修正
船べりアラーム	穂先への巻き込み抑制警告
LEDバックライト	バックライト点灯設定　※初期設定はOFF
タイマー	投入時間を表示　※初期設定はOFF
P3引き出し入力 改良	30m⇒60m入力 ※従来は50m⇒100m
電池交換可	アングラー自身で簡単に交換可

【シンクロレベルワインド】

SYNCHRO LEVEL-WIND

ドラグ性能を飛躍的に高める。

レベルワインドがライン位置とシンクロして左右に追従する機構。この機能は、スプールから糸が出ていく動作時に有効に機能する。なぜ必要か？　それは、安心して魚とのやりとりに集中できるため。それではひも解いてみよう。まずはドラグ性能を飛躍的に高めるための重要な機能。ドラグ作動の不安定さを払拭し、滑らかなドラグ作動をサポート。次にラインへの負荷軽減。スプールとレベルワインドの放出角度が小さくなり、摩擦抵抗が減ることで実現。結果、細糸PEを使用しても、安心してファイトに集中できる。

ソルティガICならではの構造改革

ソルティガICのコンセプトであるコンパクト設計を実現するために従来と異なるシンクロ機構構造を採用。ハンドル側へ構造を移設し最適化した結果、パーミング側サイドプレートの外径を最大約10%の小径化。（※当社従来比）。更に、パーミング側サイドプレートの厚さにも注目。IC無の機種と遜色ないサイズでコンパクト化を実現。ロッドセンターからの距離も近くなったため、圧倒的な握りやすさにつながった。

【マグシールドボールベアリング】

MAGSEALED BALLBEARING

初期性能を維持する、唯一無二のボールベアリング

磁性流体（マグオイル）によってボールベアリングそのものを防水化するという画期的テクノロジーで、ベアリング内への塩などの異物浸入を防ぐ、ダイワが誇るマグシールドボールベアリング。ベイトリールは構造上、スプールとボディの隙間から海水の浸入は避けられず、それにより、もっとも塩噛みの影響を受けてしまうのが、ピニオンギア部ハンドル側のボールベアリングである。ソルティガICは、この耐久性が求められる部分に信頼のマグシールドボールベアリングを配置。

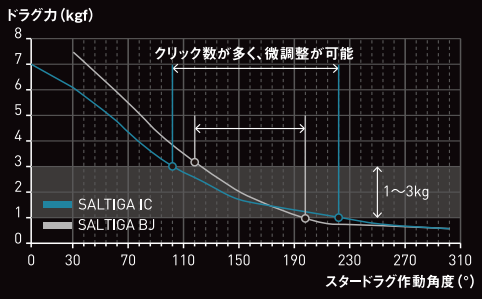
※『MAGSEALED』『MAG SEALED』はDAIWA（グローブライド株式会社）の登録商標です。

すべては「獲る」ために。
どれもがDAIWAの合理

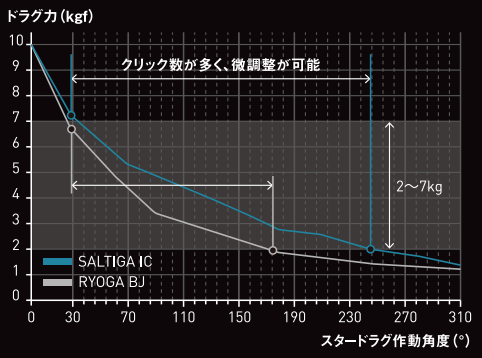
せっかくのテクノロジーを机上の空論に終わらせないために。
釣具は、釣り場に立ち、実際に使ったとき、
違和感やストレスを感じずに操作できなければならない。

[スタードラグ作動角とドラグ力の関係(ドラグ調整範囲比較)]

SALTIGA IC100



SALTIGA IC300



【オートマチックドラグシステム】

ATD

滑らかに作動する高耐久ドラグ。

ソルティガ ICでは、実釣で多様されるドラグ調整幅をサイズごとにチューニング。PE0.8～2号までをメインに使用する100サイズでは、1～4kg負荷のドラグ調整範囲の幅にこだわり設定。同様にPE1.2～3号までをメインに使用する300サイズでは、2～7kg負荷のドラグ調整範囲の幅に設定。グラフ結果から見ても明らかで、従来機種と比較しセッティング可能領域が広がりさらにきめ細かなドラグ設定が可能となった。

【コンパクトボディ／サムレストポジション】

COMPACT BODY / THUMB REST POSITION

見て、触って、使って体感できる操作性。

[サムレストポジションの重要性]

様々なテスター陣によるリールの握り方を分析。サミング時、ジグ操作時、ヒット後のやりとり…これらすべて親指の位置が変わる。そう、手首に掛かる負担を減らそうと、何度も握り直していることに気付かされる。握り込みやすさ、手当たりのよさ、力の伝達力などに、最大の配慮を施したサムレストポジション。わかる人には、なるほどね。と瞬時に納得していただけるはずだ。

レベルワインド前方に設置されるダイワ独自のフロントピラーの効果は絶大。握り込める形状にこだわったからこそ、パーミング側人差し指の配置も重要なのだ。ポイントは、①指の挟み込み防止②レベルワインド機構の保護(落下時など衝撃防止)　③ボディ剛性UP。ロッド装着時、フォアグリップとフロントピラー下側のスペースに人差し指を置くことで、手当たり感追求、収まり感追求、ひいては感度UPを追求。すっぽ抜けなどの落下防止にも大きく貢献している。

「タナをアラーム音で把握って発想がおもろい」

100シリーズ × 中井一誠

初期プロトをニュージーランドへ持ち込んでタイラバを巻きまくったのが最初。「なにコレ、10m毎に音が鳴る！　100mだと10回鳴るの？（実際は5回まで）」。最初に気に入ったデプスアラーム。これは快適そのもの。液晶を見る回数が減り、周りの状況把握に余裕が出来た。とくにドテラ流しのディープタイラバにはカウンターは必須だから、視覚聴覚の両面でタナを把握できるのは助かるよね。

今のディープタイラバは、場合によっては300mほどラインを出すこともあるけど、それを巻き取るときの剛性、パワーも抜群。こんなにコンパクトで軽いのに。もちろん大物とも余裕でやり取りできるし、巻き心地もシルキー。もう他のリールには戻れないよ。

FIELD TESTER'S IMPRESSION

「もう少し早く欲しかった」

300シリーズ × 清水一成

開発初期から携わったけど、本当にすごいものが出来上がったなと思います。コンセプトは、軽量コンパクト、頑丈、パワー。集中力の維持、剛性感、幅広い水深での快適なジギングをするには大事な要素。どれもケタ違い。

僕、正直、ICカウンター不要派でした。重いし、構造的に剛性も低いし、あっても見づらいから見ないし。でもソルティガICはその考えを根本から覆してくれました。ICなしの機種並に軽くて、強くて、そもそもリールとしてのベース性能が、バグってるくらいに高い。しかもデプスアラーム機能がメチャクチャ使えます。ICを不要と思う理由がもはや一個もない。中深海までできるベイトリールとしては、はっきりいって最強ですね、これ。

LINE UP & SPEC

100P-DH

PE0.8 ～ 1.5号をメインに組み立てる潮流の変化や水中の状況をとらえる感度重視モデル。等速巻きや同一レンジでより多く誘う状況で威力を発揮する重要アイテム。

100

PE0.8 ～ 1.5号をメインに組み立てるオールラウンドモデル。早すぎず遅すぎない巻き取り長さで、リズミカルなワンピッチやフォールを演出しやすく、幅広い釣法に対応するベストな1台。

300

PE1.2 ～ 2.5号を軸に近海ライトジギング全方位に対応するストロングモデル。テクニカルな操作性とダイナミックな巻き上げパワーでターゲットをねじ伏せる。

300H-SJ

PE1.2～2.5号を軸に、近海ライトジギングからスロージギングまで対応するスペシャリティーモデル。PE1.2-600mストック可能、クラスNo.1のハイスピード仕様で圧倒的なポテンシャルを発揮する。

5月発売予定　NEW

品　名	巻き取り長（cm/ハンドル一回転）	ギア比	自重（g）	最大ドラグ（kg）	標準巻き糸量 PE（号-m）	スプール径（mm）	ハンドル長さ（mm）	ベアリング ボール/ローラー	価格（¥）	JANコード
100P-DH	54	4.8	300	7	1-400、2-200	Φ36	110	13/1	67,000	3 034664*
100PL-DH	54	4.8	300	7	1-400、2-200	Φ36	110	13/1	67,000	3 034671*
100	70	6.3	310	7	1-400、2-200	Φ36	70	11/1	67,000	3 034688*
100L	70	6.3	310	7	1-400、2-200	Φ36	70	11/1	67,000	3 034695*
300	84	6.3	385	10	2-400、3-250	Φ43	75-85	11/1	68,000	3 034701*
300L	84	6.3	385	10	2-400、3-250	Φ43	75-85	11/1	68,000	3 034718*
300H-SJ	98	7.3	405	10	2-400、3-250	Φ43	85-95	11/1	68,000	3 034725*
300HL-SJ	98	7.3	405	10	2-400、3-250	Φ43	85-95	11/1	68,000	3 034732*

※巻糸量は目安であり、メーカー・アイテム・テンションにより異なります。※価格はメーカー希望本体価格（税抜）です。
※ハンドルノブ　100シリーズ・Sサイズ互換、300シリーズ・Lサイズ互換。

速くリールを巻こうとも、彼らは難なくそのルアーに追いつくことができる。そのスピード感を最大限に表現可能なタックルが、スピニングというわけだ。

そして、スピニングリールタックルのもうひとつの利点が、ベイトリールに比べて「キャストが容易」ということだ。

このキャスト性能が最も重要視されるのが、関東を代表する、いや日本を代表するヒラマサフィールドである千葉県・外房だ。そんな外房の海で、遊漁船「宏昌丸」の船長として活躍するのが吉清良輔である。

「外房での青物狙いではスピニングタックルがマストアイテム。プラグキャスティングはもちろんですが、ジギングでもジグのキャストを行います。したがって、スピニングタックルがなければ釣りが始まりません」

外房は浅根が多く、ときに10m前後という水深をジグで攻略することも珍しくない。そんな状況では、ジグを誰よりも遠くへ飛ばし、斜めにアクションさせてより広範囲を探ることがヒラマサとの遭遇率を高める。

Spin

青物天国・北部九州をホームグラウンドとする末永知也。
そして関東の激戦区、千葉・外房で
遊漁船「宏昌丸」を営む吉清良輔。
いわば“青物ゲームのエキスパート”といえる二人に、
ここではスピニングタックルを使用したジギングの魅力や
それがどんな場面で有効なのかを語ってもらった。

ning Jigging

時にジグをキャストし、時に速い巻きスピードで攻略！

長崎県の上五島や平戸、そして玄界灘をホームグラウンドとし、精力的に釣行を繰り返す、ダイワ・オフショアフィールドテスターのホープ・末永知也。

末永が通う北部九州は、言わずと知れた日本屈指のヒラマサフィールドであり、ブリやマグロなど実に多くの魚たちも育むゲームフィッシングワールドだ。

そんなフィールドで活躍する末永に、スピニングタックルを使用したジギングの魅力を聞いた。

「スピニングタックルというよりは、ジギングそのものの魅力をまずはお話させていただくと、ジギングは魚や海底の様子、さらには自分が操作しているジグでさえも見えない想像の世界です。目で見た情報からも海中を探ることはある程度可能ですが、それ以上にロッドを通して得られる情報から、海中のあらゆる事象をイメージして釣っていきます。いわば〝イマジネーション〟のゲームです。そのなかでもスピニングリールを使ったジギングは、そのゲームの答え合わせをスピードを活かして行う。そこが面白い」

ソルティガ R スピニングモデルが対象とするターゲットは、ヒラマサやブリなどの青物。彼らは遊泳力に長け、ときにはシイラやダツなどの大型ベイトフィッシュをも追い回す。

それゆえどんなにアングラーが

ッド。よりナチュラルな角のないアクションを行いたいときはローと使い分けています。とくに3番のミッドは、水深が50〜60m以浅のエリアで、ドテラで船を流して釣るような状況でジグを斜めに引いて来るときに最適です。ヒラマサ狙いの場合は、ラインスラックを作ってジグに少しスピードを与えてスライドさせる必要があったり、ジグの動き出しまたはスライド幅にインパクトが必要なことがあります。それを快適に行うことができます」

ローは逆だと末永は言う。

「線に近い、角が立たないアクションが必要なときに有効です。ヒラマサ狙いでも、そのようなアクションが効果的な場面は案外あります」

また、水深80m以上のブリ狙いでも3番のローは有効だという。

ただ、水深70〜80m以上でヒラマサを狙うとなれば、もうワンランク強いパワーが必要になると末永。そのようなモデルは、今後の開発に期待したい。ちなみにハイに関しては、末永はあまり使用する場面はないという。

一方、外房の吉清はどうだろう。

「外房におけるヒラマサやワラサを対象としたジギングでは、ラインはPE3号にリーダー12号が標準です。10kgオーバーなど大型が回遊している状況では、PE4号にリーダー14号、16号が必要となります。先に外房のヒラマサ狙いではジギングもジグをキャストすることが絶対条件だと言いました。これは、全国的に見れば、非常に特殊だと言えます。したがって、このソルティガRに関しては、とくに初心者の方々には今やヒラマサ以上に人気があると言ってもいいかもしれない、ワラサ狙いに最適だと思いました」と吉清。

「ソルティガRは非常にしなやかなジギングロッドですので、ジグをキャストする際にはコツが必要です。アンダーハンドキャストに慣れていない人は、張りのある標準的な青物ジギングロッドでキャストしているアングラーと比べると飛距離で負けてしまうことがあります。そういった意味では、外房においてはヒラマサ狙いと限定するのであれば、ある意味エキスパート向けのロッドといえるかもしれません」

水深10m前後といった非常に浅いポイントでは、ジグの飛距離が釣果に直結する重要な要素となる。より遠くにキャストできたほうが広範囲を探れ、魚との遭遇率がアップするのはもちろん、ジグが船から離れれば離れるほどプレッシャーがかかりにくいというメリットもある。

「そこで、外房でこのソルティガRを私がおすすめしたい場面が、深場のワラサ狙いです」

外房では、例年真冬頃から春頃にかけて、水深60〜80m前後というこのエリアでは深めのポイントにワラサ（ブリも含む）が回遊して来る。ヒラマサよりも比較的釣りやすいので、近年はそれを狙うアングラーが多くこの地を訪れる。

ロッドは“演出家”であり、同時にアングラーに情報を伝える“ジャーナリスト”

スピニングリールだからこそ優位に立てるシチュエーションは多々ある。魚が常態的にスレていると言われる現代。オフショアゲームにおいても、状況に合わせ、タックルも使い分ける時代に来ている。

「ただ、ワラサ狙いでもこのソルティガRを使う場合には条件があり、向かって来る潮のときはジグをしっかりとしゃくる必要があるためコツが必要ですが、払い出していく潮のときは本当にいい仕事をしてくれます」

外房のルアー船は基本的には乗合スタイルで、船の両舷にアングラーを乗せてドテラで流す。そのため、ジギングではラインが船下に入る舷と、払い出していく舷が交互に訪れる。

「条件に当てはまったときは、本当によく釣れて、魚が掛かればよくロッドが曲がるので、もの凄く楽しいですよ」

ジギングとひと口に言っても、年々攻略法の開拓が進み、道具もそれに合わせて進化し、様々なタイプが存在する。もちろん一本の標準的タックルでも魚は釣れないことはない。だが、より快適に、そしてより的確に釣るためには、適材適所で道具を使い分ける時代になっている。

長崎県の上五島や平戸、そして玄界灘をホームグラウンドとする、ダイワ・オフショアフィールドテスターのホープ・末永知也。

「前述のように、ジギングはイマジネーションの釣りです。したがって、釣りを組み立てていく際、戦略という意味で〝情報量〟がひとつのキーワードになります」と話すのは、末永だ。アングラーが得られる情報には、陸上地形、鳥の動き、海面の波立ちの変化、そして船長がアナウンスしてくれる魚探の水深や海底地形の変化などがあるだろう。だがこれらは、乗船者全員が見たり共有できたりする情報だ。

「たとえば、乗合船で他の人よりも大型魚を釣る、早く釣る、より多く釣るとなれば、それ以外に自分が五感で感じ取ることができる海中の情報が重要になってきます。その情報は多ければ多いほどいい。それは、潮の変化だったり、ジグのアクションであったり、魚のチェイスなどがあります。そういう物事をアングラーが感じ取れるひとつの道具が、ロッドです」

つまりロッドは、アングラーがイメージする動きをルアーでリアルに表現するための演出家であり、アングラーに情報を的確に伝えるジャーナリストでもあるのだ。そういった性能を高い次元で具現化したロッドが、軽さと操作性、そして感度に長け、ロー、ミッド、ハイという3つの異なるブランク性能を与えられた「ソルティガR」だ。

末永が釣行する長崎県の平戸をメインとするフィールドでは、ジギングではメインラインはPE4号もしくは5号が標準となる。ただ、潮が極端に速いなど状況によって3号も使用することがあるという。

それゆえ、パワー表記でいえば3番がメインとなる。

「水深50m以内であれば3番のローまたはミッドを使います。ジグをしっかり飛ばしたい状況ではミ

3種のブランク設定で状況に応じてアジャスト！

Spinning Jigging×SALTIGA R
末永知也×吉清良輔 Impression

Tomoya Suenaga & Ryosuke Kissei

HI（ハイ）、LO（ロー）、MD（ミッド）という3つの異なるブランクの機種をラインナップすることで同ラインクラスでロッドレスポンス（Response=R）を状況に応じて戦略的に使い分けることを可能としたジギングロッドシリーズ「ソルティガ R」。ここでは、そのスピニングモデルの具体的な使い方や有効な場面を教えてもらった。

激戦区・千葉外房の海で、遊漁船「宏昌丸」の船長として活躍する吉清良輔。船長であるのと同時に、優れたアングラーでもある。

Column

夢を掴み獲るためのREEL TECHNOLOGY

for Spinning&Bait

ATD

［オートマチックドラグシステム］

大型魚を相手するとき、細糸を使用するとき、ドラグがスムーズに効かなくては、ラインブレイクに繋がる。ATDは、スムーズに作動し、滑らかに効き続ける新世代のドラグシステム。ファイト中のドラグ低下を制御し、ドラグの初期設定をしっかりと行っておけば、よりファイトに集中することが可能だ。NEWベイトリールのソルティガIC、大型魚と対峙する可能性がある20ソルティガともに装備。

SALTIGA ICでは、大型サイズで調整しやすいアルミ製スタードラグに、カーボンワッシャーを装備。高負荷時の摩擦熱による食いつきは軽減され、スムーズな滑り出しを実現。また20SALTIGAは、大口径アルミマシンカットドラグノブのラジエーション構造を備えつつ、14枚（18000、20000番は18枚）のドラグワッシャーで、スムーズなドラグの効きと耐久性を備える。

for Spinning

MONOCOQUE BODY

［モノコックボディ］

ボディの剛性アップと、同ボディサイズでありながら大型ギアを内蔵でき、さらに軽量化も併せ持つ一体成型構造のモノコックボディ。このボディデザインは、従来はボディカバーを数ヶ所のスクリューで固定している構造に対し、モノコックボディはボディに直接高精度のプレートをねじ込む構造。これにより前述した性能の向上とともに、気密性もアップ。ボディ内部への海水、埃の侵入をシャットアウトすることに繋がった。

エンジンプレートをボディにねじ込む構造。気密性がアップする。

for Spinning

MAG SEALED

［マグシールド］

ダイワスピニングリールの多くのモデルに採用されているマグシールド。スムーズな回転が続く。

釣り業界のリールの防水性能に革命をもたらしたマグシールド。宇宙服の開発で誕生した磁性流体を用い、磁性を持つオイルで壁を作るダイワ独自のテクノロジーだ。これをボディとローターの隙間に採用し、海水や埃などの侵入をシャットアウトできるようにした。この部分の防水からマグシールドテクノロジーはスタートした。そしてこれにより、ボディとローターが無接点になることで、軽く滑らかな回転を長期間維持することが可能に。また潮ガミ、異物の侵入がないことで、回転時の異音は大幅に低下。いつまでも、気持ちよいリーリングを実感する。

for Spinning&Bait

MAGSEALED BALLBEARING

［マグシールド ボールベアリング］

マグシールドに続いてダイワが開発したのが、マグシールドボールベアリング。磁性を持つ液体の壁によって、ボールベアリング内部への水・異物の侵入を抑えることで、ボールベアリング本来の性能を維持しながら、錆・塩ガミ・異音を大幅に解消。結果、ボールベアリングの初期性能を長期間にわたって維持することを実現した。ソルティガICでは、ピニオンギアハンドル側のボールベアリングに採用。20ソルティガ スピニングでは、ドライブギアの両端に各1個ずつ搭載している。

20SALTIGAでは、ドライブギアの両端に、SALTIGA ICではピニオンギア部に搭載。

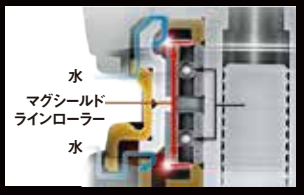
for Spinning

MAGSEALED LINE ROLLER

［マグシールド ラインローラー］

スピニングリールの場合、ラインが拾ってくる海水の塩分や砂をダイレクトに受け止めるラインローラーは、回転の不具合が生じやすい箇所である。ラインローラーは小さな回転箇所だが、回転を維持することが大切であるため、ダイワでは独自のマグシールドテクノロジーを追求し、ラインローラーの防水化を実現。潮ガミ、異物の侵入を防ぐことで、回転フィールや感度などの初期性能の維持に大きく貢献するとともに、糸ヨレなどのトラブルも軽減。最新テクノロジーを詰め込んだ、20ソルティガ スピニングでは、もちろん採用されている。

潮ガミしやすいラインローラーだが、マグシールド化で、スムーズな回転が続く。



※「MONOCOQUE」「MC」「MAGSEALED」「MAG SEALED」は、DAIWA（グローブライド株式会社）の登録商標です。

R
for Spinning Jigging

軽量、高強度を両立させた次世代のジギングロッドがソルティガR。コンセプトは“戦略的なレスポンス（Response=R）の使い分け”。同一パワーのなかにHI（ハイレスポンス）、MD（ミッドレスポンス）、LO（ローレスポンス）など弾性率の異なるモデルを設定することで、ジャークパターンやジグの形状に合わせたゲーム展開を可能にする。2021年はスピニングモデルに2号クラスが新登場。より繊細でテクニカルなジグアクションを武器に、近海の青物狙いに新たな旋風を巻き起こす。

SALTIGA R J60S-2 HI NEW

スピードジャークメインのハイレスポンス軽量スピニングロッド。ショートレングス＆高弾性素材のブランクは細身、軽量の外観からは想像もできない強度を誇り、小型の数釣りから10kg級まで幅広く対応。160g前後までのジグを用いた様々なコンビネーションジャークを軽快にこなす特性は、広範囲に散った魚を高速ジャークで狙うスピーディなジギングに最適。

SALTIGA R J60S-3 HI

ドテラ流し対応ハイレスポンス軽量ジギングロッド。ショートレングス＆高弾性素材によるハイレスポンス仕様により、ドテラ流しで船からジグが離れた状態においても軽快なジャークでジグにしっかりアクションを伝達。また、細身、軽量のブランクからは想像できない強度を誇り、200g前後までのジグで行う丹後ジャークをはじめ、様々なジャークを軽快にこなす。

リールとの一体感がアップするダークブルーのブランクは、さらなる軽量化と高強度化を可能にする「HVFナノプラス」をX45で補強してネジレを解消。グリップには軽量エアセンサーシートを採用している。

チタンKガイドを基本に、先端部には大口径のトップガイドを装着。太めのショックリーダーを使用する状況においても糸抜けの良さを損なわない。

SALTIGA R 62S-2 LO NEW

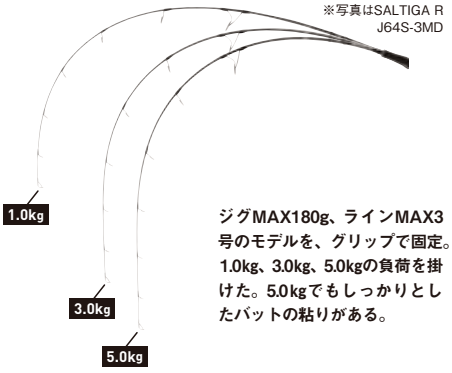
ワンピッチジャークメインのローレスポンス軽量スピニングモデル。先行機種の62S-3LOより一段ライトな2パワーはPE1.5～2号、ジグウエイト180gまでのジギングに適応。圧倒的な軽量化を図ったブランクはアングラーの負担を軽減し、ローレスポンス特有のしなやかさでジグをナチュラルに動かす。スピード系のジャークに反応がない時こそ使ってみたいアイテムだ。

SALTIGA R J62S-3 LO

ワンピッチジャークメインのローレスポンス軽量ジギングロッド。イナダ（ハマチ）～ブリ、サワラ狙いで多用されるPE2～3号、220gまでのジグによるワンピッチジャークにベストマッチする近海ジギングのど真ん中モデル。強度を確保しつつ圧倒的な軽量化を図ったこのモデルはジギングのイメージを根底から覆し、一日中疲れ知らずでジャークを続けることが可能。

SALTIGA R J64S-3 MD

水深が浅いエリアや魚が広範囲に散っている状況下でのキャスト＆斜め引きに対応する軽量ジギングロッド。最大180gまでのジグのキャストを考慮し、ブランク素材には中弾性カーボンを採用。適度な反発によりキャストがしやすく、ジャーク時にはむやみにジグが暴れることを抑制する。もちろんパワーも十分。ブリ、サワラはもちろん、中型ヒラマサをも確実に寄せる。



ジグMAX180g、ラインMAX3号のモデルを、グリップで固定。1.0kg、3.0kg、5.0kgの負荷を掛けた。5.0kgでもしっかりとしたバットの粘りがある。

ソルティガ R Spinning

品名	全長(m)	継数(本)	仕舞(cm)	自重(g)	先径/元径(mm)	ジグ重量(g) ジギング	ライン PE(号)	カーボン含有率(%)	価格(¥)	JANコード
J60S-2 HI	1.83	1	183	140	2.0/8.4	MAX160	MAX 2	92	50,500	3 067648※
J62S-2 LO	1.88	1	188	135	2.0/9.9	MAX180	MAX 2	90	50,500	3 067655※
J60S-3 HI	1.83	1	183	145	2.1/9.4	MAX210	MAX 3	94	51,000	3 059971※
J62S-3 LO	1.88	1	188	155	2.1/11.9	MAX220	MAX 3	90	51,000	3 059988※
J64S-3 MD	1.93	1	193	150	1.8/12.4	MAX180	MAX 3	96	51,000	3 059995※

※竿径は、竿先から最も近く、部品・糸巻きのついていない外径、( )内は素材先端部の外径です。
元径は、竿種により測定部が異なるためWebにてご確認ください。
※価格はメーカー希望本体価格（税抜）です。◎赤字は、3月発売予定の新製品です。

そんなヒラマサはもちろん、GTやマグロ類をターゲットとしたキャスティングゲーム専用ロッドとして、ダイワ最高峰の地位に君臨する「NEWソルティガC」シリーズが、2021年、完全リニューアルして登場する。

「こだわったのが〝ニュースタンダード〟というべき性能。徹底的に基本性能をブラッシュアップし、日本国内はもとより世界のフィールドまで、そして初心者からベテランまで、幅広いエリアと層のアングラーに満足していただける仕上がりとなっています」とは、NEWソルティガCの開発にも携わった末永。

「先にキャスティングゲームは投げる楽しみがあると言いました。それにつながるロッドの性能は、振り抜け感やトラブルレスなどがあると思いますが、キャスティングロッドに求められるのはそれだけではありません。長時間キャストし続けられる軽さとバランス、ルアーの操作性、魚を掛けた後のリフトアップ力、ファイト時のアングラーへの負担軽減とその項目は多々あります。NEWソルティガCは、〝X45FULLSHIELD〟をはじめとしたダイワが誇る最先端テクノロジーにより、それらすべてを高い次元で実現しています」

Casting Ga

大海原に向かってフルキャストする爽快感と、迫力の水面バイト!

遥か彼方へと気持ちよく伸びるライン。
大型プラグに炸裂する海面――。
ヒラマサなどの大型青物やマグロ、GTなどを対象とした
キャスティングゲームは非常に爽快でエキサイティングだ。
2021年、ソルティガキャスティングモデルが完全リニューアルされる。
まずはキャスティングゲームの魅力について、
末永と吉清に語ってもらった。

「キャスティングゲームというだけに、この釣りにはまずは〝ルアーをキャストする〟という楽しさがあります。大空そして大海原に向かってルアーが大きく弧を描き、ラインが伸びていく様は、本当に爽快です」

魚がヒットすればもちろん最高だが、投げているだけでも十分に楽しい、と末永も吉清もキャスティングゲームの魅力について口をそろえた。さらに、

「ヒラマサを中心に話を進めますが、最近はシンキングで狙う方法もあるものの、基本的にはトップの釣りです。したがって、バイトの瞬間が丸見え。これが最高にエキサイティングです」

キャスティングゲームは淡水ではブラックバスやトラウト、ソルトではマグロやGT、シイラ、シーバスなど様々な魚をターゲットとして行われるが、ヒラマサについてはそれらの中でもGTと並んで特別な存在だと末永は言う。

「時期にもよりますが、ヒラマサは根ズレのリスクが非常に高いポイントでヒットして来ます。しかも、ジギングに比べるとヒットする魚がデカイ傾向にあります。大きさでいえばマグロの方が大型になりますが、根ズレのスリル感とはまた違った魅力だと思います。さらに、ヒラマサはブラックバスのサイトゲームともまた違った魅力です。GTと並んで、そのスリル感や迫力は他のゲームにはありません。数ある釣りの中でも異色と言っていいと思います」

ブラックバスを経てオフショアの世界へと足を踏み入れた末永らしいコメントだ。一方で吉清は、

「お客さんが引くルアーを見ているだけでもワクワクしますね。自分で釣りをしているわけでもないのに、ワクワク感とスリル感がハンパない」とコメント。

me

「NEW ソルティガ C（キャスティング）モデルは、キャストする楽しさを存分に味わえるロッドに仕上がっています」と末永は言う。

ティングすることで、気持ちよくキャストできて、気持ちよく操作できます。もちろん、20kgオーバーとも渡り合えるパワーも持ち併せています」

ヒラマサキャスティングでは最もスタンダードな一本ながら、九州エリアをホームとする、そして九州エリアに通いこむベテランをも満足させる性能と仕上がりとなっている。

「C710-8の狙いは、ズバリ大マサ。PE8号を使って真っ向勝負を挑むアングラーに贈る一本です。水深が浅く、潮の流れも速く、魚がヒットした瞬間にアングラーが主導権を握らなければヤラれるという、C83-6ではちょっと不安があるという状況に最適です」

その長さからも分かるように、C710-8はロングキャスト性能を重視していない。水深が浅く潮も速いポイントでは、遠くに投げすぎるとその分根ズレのリスクが高まるからだ。

「そのようなポイントでは、ショートに刻んでいく方法が有効です。ロッドが短いため取り回しが楽で、掛けた瞬間から主導権を握ることができます。アングラーへの負担も驚くほど少なくなっています」

イメージとしては、パワーゲームに慣れていない人も扱いやすいバランスのよいパワーロッド。短さゆえの初動操作の早さを武器に戦う、戦闘型ロッドだ。

「ベーシックなC83-6とこのC710-8の2機種があれば、九州のヒラマサキャスティングゲームはある状況以外はほぼカバー可能です」

その〝ある状況〟をカバーするのがC85-8だ。

「C710-8と同じく8パワー設定ですが、8ft5inという長さゆえ、ロングキャストを強く意識したパワーモデルだと感じるかもしれませんが、このロッドを開発するにあたって最も主眼を置いたのがストロークの長いジャークを行いやすいこと。シイラやダツといった、スピードのあるベイトフィッシュをヒラマサが追っている状況で使っていただきたいですね」

ただ、長くてパワーもある分、大型魚とのファイトに不慣れなアングラーが大型サイズを掛けた際はノサれてしまうかもしれない。

「とはいえ、アングラーのパワーをそのままリフト力として伝えてくれるので、絶対に走られたくないというような状況では圧倒的な信頼感があります」

ある意味使い手を選ぶロッドといえるが、このロッドがバッチリとマッチする状況は案外多い。そのようなシチュエーションでは最高の相棒となってくれる。

NEW ソルティガ Cモデルは、キャストする楽しさを存分に味わえる仕上がり

NEW ソルティガ Cの開発には、緻密なゲーム組み立てに定評のある末永の意見が多く反映されている。現在のオフショアキャスティングゲームは、状況に合わせて最適なタックルを使い分けるのは当たり前と言えよう。

NEWソルティガC（キャスティング）モデルのラインナップは全7機種。そのなかでも、吉清が外房のヒラマサを対象としたプラグキャスティングゲームでイチオシなのが、C75-5だ。

吉清が船長を務める「宏昌丸」もそうだが、外房エリアのルアー船は一般的には乗り合いであり、大型船が多く、ときには20人以上ものアングラーが乗船する。それゆえ、チャーター時は別として、プラグキャスティングはもちろん、ジギングでもルアーは安全性を考慮してアンダーハンドキャストがスタンダードである。

「そのため、プラグキャスティングの場合は、慣れた人なら問題はないのでしょうけど、とくに初心者の場合は長さが8ft以上あると扱いにくいと思います。また、プラグキャスティングはPE4号では細め、5号が標準、6号で太めという認識です。つまり、5パワーのC75-5はまさに〝外房スペシャル〟と言うべきスペックです」

ただ、20kg以上のサイズがヒットする可能性がある状況ではPE6～8号を使いたい。

北部九州エリアのヒラマサキャスティングゲームで末永がイチオシなのが、C83-6とC710-8、そしてC85-8の3本だ。

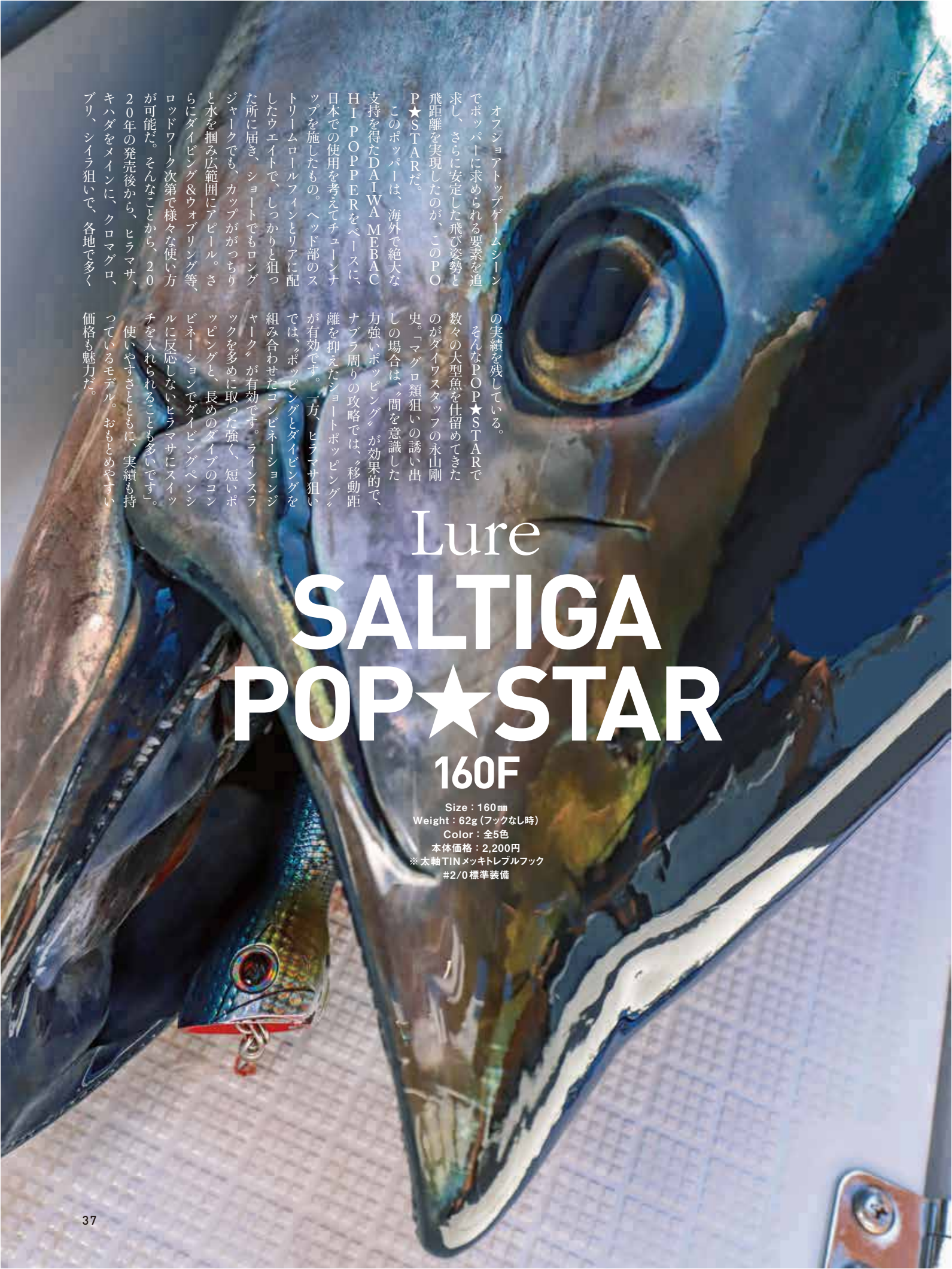
「C83-6は、九州ならずとも、オーバーヘッドでキャスティングを行うヒラマサキャスティングゲームに最適です。PE6号に160～220㎜程度のルアーをセッ

高強度ブランクがアングラーを有利にさせる!

Casting Game×SALTIGA C
末永知也×吉清良輔 Impression

Tomoya Suenaga & Ryosuke Kissei

外房は大型船の乗合が一般的なスタイルで、
アンダーハンドキャストがスタンダードである。
一方、北部九州のキャスティングではオーバーヘッドが基本だ。
同じヒラマサ狙いであっても、エリアが変われればスタイルも変わる。
ここでは、それぞれのフィールドに
オススメのモデルをピックアップしてもらい、
それぞれの特徴を紹介してもらった。



Lure

SALTIGA POP★STAR 160F

Size：160㎜
Weight：62g（フックなし時）
Color：全5色
本体価格：2,200円
※太軸TINメッキトレブルフック
#2/0標準装備

オフショアトップゲームシーンでポッパーに求められる要素を追求し、さらに安定した飛び姿勢と飛距離を実現したのが、このPOP★STARだ。

このポッパーは、海外で絶大な支持を得たDAIWA MEBACHI POPPERをベースに、日本での使用を考えてチューンナップを施したもの。ヘッド部のストリームロールフィンとリアに配したウエイトで、しっかりと狙った所に届き、ショートでもロングジャークでも、カップががっちりと水を掴み広範囲にアピール。さらにダイビング&ウォブリング等、ロッドワーク次第で様々な使い方が可能だ。そんなことから、2020年の発売後から、ヒラマサ、キハダをメインに、クロマグロ、ブリ、シイラ狙いで、各地で多くの実績を残している。

そんなPOP★STARで数々の大型魚を仕留めてきたのがダイワスタッフの永山剛史。「マグロ類狙いの誘い出しの場合は、〝間〟を意識した力強いポッピング〟が効果的で、ナブラ周りの攻略では、〝移動距離を抑えたショートポッピング〟が有効です。一方、ヒラマサ狙いでは、〝ポッピングとダイビングを組み合わせたコンビネーションジャーク〟が有効です。ラインスラックを多めに取った強く、短いポッピングと、長めのダイブのコンビネーションでダイビングペンシルに反応しないヒラマサにスイッチを入れられることも多いです」。

使いやすさとともに、実績も持っているモデル。おもとめやすい価格も魅力だ。

C
for Casting

安定した飛距離、ルアーの操作性、ファイト時の魚のコントロール、そして破壊強度。『SALTIGA C』は、オフショアキャスティングロッドに当然備わっているべきそれらの性能に、いっそうの磨きをかけたモデルだ。その源となるのはHVFナノプラスを採用したブランクにX45フルシールド、Vジョイントαなど最先端のテクノロジーを凝縮したシャフト。基本性能を大幅に進化させたうえで個々のゲームに特化した7アイテムが、BREAK YOUR RECORDの瞬間を演出する。

SALTIGA C83-3 NEW

シリーズ中もっともライトな83-3は、140㎜程度の比較的小型のプラグのキャスタビリティ及び操作性に長けたモデル。セレクティブなヒラマサやブリだけでなく、ロングキャストが必須となるヘビーシンキングミノーでのサワラ狙いや、高比重ジグを用いたカツオ狙いにも高次元に対応。近海ライトゲーム全般において幅広く活躍する。

SALTIGA C82-4 NEW

170㎜前後のプラグで狙うヒラマサやブリをはじめ、近海青物ゲーム全般に対応するマルチキャスティングモデル。パワーを内包した軽量ブランクとしなやかなティップの組み合わせは、ミドルサイズのプラグのロングキャストはもちろん、快適な操作性でも真価を発揮。オーバーヘッドキャストだけでなくアンダーキャストもしやすい万能ロッド。

SALTIGA C75-5 NEW

取り回しが良く、ヒラマサやキハダ狙いにおける胴の間でのアンダーキャストや、小型ボートからのキャスティングを得意とするショートレングスモデル。また、混雑する乗合船でのキャスティングゲームにおいても、サブとして持ち込んでおくことで突然沸く船周りのボイルに即座に対応。小回りが利き、釣り座を選ばず真価を発揮する頼れる1本。

SALTIGA C81-5 NEW

190㎜前後のプラグ、PE5号をメインとしたヒラマサやキハダなどのキャスティングゲームを1本でこなす汎用性が魅力。軽さと柔軟なティップを備えたクセのないブランクは、体力に自信のないアングラーや女性が使用しても疲れ知らずの高バランスを実現。オーバーヘッドだけでなくアンダーキャストもこなし、どこに行くにも持っておきたいモデル。

SALTIGA C83-6 NEW

180〜200㎜クラスのプラグ、PE6号をメインに使用する九州ヒラマサや大型キハダに向けたモデル。あふれるパワーを有していながら持ち重りしないブランクは、揺れる船上での安定したキャストを容易にしつつ、プラグの操作性、そしてファイトからランディングのプロセスをも快適にサポート。基本に忠実なキャスティングロッド。

SALTIGA C710-8 NEW

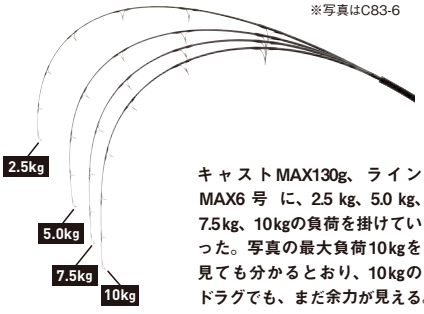
PE8号で挑む九州での大型ヒラマサや離島でのGTに向けたハイパワーロッド。飛距離を落とさないようしっかり振り切れるレングスを確保しつつ、ロッド全体に負荷を分散したブランクに設計することで魚にのされにくく、なおかつファイトの負担を極力軽減。ベテランアングラーだけでなく、これから大型魚に挑戦するアングラーにもおすすめの1本。

SALTIGA C85-8 NEW

最大ルアーウエイトが160gに及ぶヘビーな仕様は、PE8号で挑む九州の大型ヒラマサ狙いや、離島でのGTゲームに向けたロングキャストモデル。また、シリーズ最長を誇る8フィート5インチ（2.57m）のレングスが大型魚の強い引きも難なくコントロール。ここ一番の勝負で底力を発揮するSALTIGA随一の対大型魚専用モデル。

元ガイドはすべてのモデルでMNSG（オーシャンガイド）の逆付けを採用。太いラインに対応すると同時に強度を確保し、キャスト時の放出性能も向上している。

バットジョイント部には圧倒的な強度ときれいな曲がりを追求したV-ジョイントαを搭載しつつ、ブランクには高強度かつ強い粘りが特徴のHVFナノプラスを採用。



キャストMAX130g、ラインMAX6号に、2.5kg、5.0kg、7.5kg、10kgの負荷を掛けていった。写真の最大負荷10kgを見ても分かるとおり、10kgのドラグでも、まだ余力が見える。

最外層の先端部からバット部までをX45フルシールド構造で補強。剛性とネジレ耐性がさらに進化。キャスト、フッキング、ファイトで徹底的にネジレを排除する。

ソルティガ C 4月発売予定 NEW

品名	全長(m)	継数(本)	仕舞(cm)	自重(g)	先径/元径(mm)	ルアー重量(g) キャスト	ライン PE(号)	カーボン含有率(%)	価格(¥)	JANコード
83-3	2.51	2	193	235	2.2/15.8	MAX60	MAX PE3	97	57,000	3 067709※
82-4	2.49	2	189	265	2.2/16.4	MAX80	MAX PE4	97	58,000	3 067716※
75-5	2.26	2	164	270	2.6/15.8	MAX100	MAX PE5	97	58,000	3 067723※
81-5	2.46	2	187	320	2.2/16.9	MAX100	MAX PE5	97	59,000	3 067730※
83-6	2.51	2	190	365	2.2/17.4	MAX130	MAX PE6	97	60,000	3 067747※
710-8	2.39	2	178	365	2.8/17.8	MAX160	MAX PE8	97	61,000	3 067754※
85-8	2.57	2	190	385	2.6/19.9	MAX160	MAX PE8	96	62,000	3 129155※

※竿径は、竿先から最も近く、部品・糸巻きのついていない外径、（ ）内は素材先端部の外径です。元径は、竿種により測定部が異なるためWebにてご確認ください。 ※価格はメーカー希望本体価格（税抜）です。

SALTIGA SUPPORT ITEM

究極の釣りを実現させるためのSALTIGAブランドは、
ロッドやリールだけでなく、様々なアイテムを展開する。
ここでは、その一部を紹介。アングラーをしっかりとサポートしてくれる道具たちだ！

Apparel

ソルティガ オフショア グローブ DG-74020

手首の動きを妨げないようにデザインした、ショートタイプのSALTIGAオフショアグローブ。人差し指、親指、手のひらのロッドグリップを握る時、ベイトリールをパーミングするときに当たる部分には、本革で補強。またスピニングリール使用時のリールフットが当たる指又には柔らかい素材のネオプレンを使用。さらに甲側は通気性のよいストレッチ素材で、蒸れにくく、拳の動きを妨げないようになっている。サイズ：M、L、XL、2XL。カラー：ソルティガブラック。本体価格：3,900円

ファイティングパッドを装着し、パッド使用時のズレを防ぐファイティングベルトは、使用しないときは内部に収納可能。カバーには、ベルクロではなく、YKK製クイックバーストを使用し、落水の際にはきちんと気室が開く安心設計。

ソルティガ インフレータブル ジャケット DF-2120

オフショアゲーム、特に大型の魚を狙うゲームに特化した形状にデザインしたウエストタイプのライフジャケット。自動・手動膨張式で、適度な硬さを持つ樹脂板を挟み込んだ、しっかりとウエストにフィットするファイティングベルトと、お手軽で便利なロングセラーの「UTファイティングパッドDA-4603」が標準装備されている。ファイティングパッドに高負荷が掛かっても、ベルトがしっかりと腰を捉え、捻じれることなくファイトに集中することが可能だ。浮力：7.5kg/24時間。カラー：SGブルー。本体価格：45,000円

Line

ソルティガ UVFデュラセンサー×8+Si²

数々の結果を残してきたPEライン・ソルティガX8を改良して、さらに耐摩耗性能をアップさせたモデル。TOUGH PEを採用し、さらにNEW Evo Siliconeを合わせることで、耐摩耗性が3倍へと進化。5カラー＆視認性の良いダブルマーキング仕様で、細かいタナの把握も容易に。本体価格：200m（0.6～3号）2,750円、300m（0.6～10号）3,700円、400m（3～8号）4,800円

Tackle Box

ソルティガ TB9000

収納性とともに、耐衝撃ポリプロピレン素材で作られた堅牢設計により、重いジグを入れても割れたりせず、収納物をしっかりと守り、さらに座ることもできるタックルボックス。使い勝手の良い両開きタイプのフタで、フタは約90度で止まる設計。インナートレーが内蔵され、小物などの整理がしやすい。本体のサイドには多目的ホルダーがあり、プライヤーなど、頻繁に使用するものを収納しておくことが可能だ。サイズ：約54×34×35㎝。重さ：約3.6kg。カラー：ブラック×ソルティガブルー。本体価格8,350円

※価格はメーカー希望本体価格（税抜）です。

Lure
SALTIGA DIVE★STAR 220F

Size：220㎜
Weight：105g（フックなし時）
Color：全5色
本体価格：3,000円
※太軸TINメッキ
トレブルフック
#4/0標準装備

キハダ、ヒラマサ、GT、クロマグロといった大型魚に的を絞り、大型ダイビングペンシルにアングラーが求めている性能をとことん追求してデザインしたモデル。トライ&エラーを繰り返しながら、約3年の歳月を費やし、数々のフィールドテストを繰り返して、完成させた魂の一本だ。

特徴としては、どんな海面状況でも安定したダイビングアクションをこなし、さまざまな使い方に対応し、そして誰もが扱いやすいということ。

それを示すように、ダイワフィールドテスター金子新のキハダ狙いでは、強く、短く、速いフラッシングジャークアクションでヒットに導いている。また、このマカジキは、着水後の速巻きで魚にスイッチを入れ、ジャークで見せ、ストップの〝間〟でヒットへと導いた。

一方、ヒラマサ狙いでDIVE★STARを多用し多くの実績を得ているのが、ダイワフィールドテスター末永知也。使用法のひとつが、スムーズにダイブさせ、水中をすり抜けるようにナチュラルに動かすというもの。緩やかなS字アクションで細身のベイト時に効果絶大だという。

また、シイラなど大型のベイトを捕食している様な時には、入力の強いフラッシングS字ダイビングアクションが高アピールで有効だという。

更にDIVE★STARでは魚肌を3D解析し、魚の体表を科学的にホログラムで再現した「ADEL Hologram」（アデルホログラム）を採用。強力にアピールしつつも、違和感なくバイトへ持ち込むことが可能だ。

佐藤偉知郎

日本のクロマグロ狙いのキャスティングゲームにおける唯一無二のアングラー。青森県をメインフィールドに、春から秋までのシーズン、クロマグロを狙って各地へ赴く。佐藤の存在を抜きにして、この釣りを語ることはできない。

ツい。それでも20ソルティガはかなり楽だし、巻き上げに力強さを感じます。やはり、モノコックボディになり、メインのドライブギアが肉厚で大型化されたこと、加えて回転の芯がしっかり出ていることが、安定した巻き上げを実現しているのかな、と思いますね。

佐藤　ドライブギアとピニオンギアの合わせ面を追い込んでいる、というところも大きいのかな。それが巻き上げの軽さにもつながっている感じがしますね。

リーリングの感触が軽く、ルアーを引いているときに引き疲れない（佐藤偉知郎）

瀬川良太（以下、瀬川）　僕がリーリングの軽さを感じたのはショアジギングをしたときですね。速めのジャカジャカ巻きでも疲れが少ない、と感じました。いままでだと疲れやすいので、長時間やり通せなかった。それで違う釣り方にチェンジしたりしていたんですが、新しいソルティガだと気付かないうちに長時間やっている、ということが多かった。

佐藤　僕自身、巻き上げの軽さは、以前のモデルと比べて一番大きく感じるところ。しかもこれは誰でも感じることが出来る違いだと思いますね。

佐野　僕がこれまで使ってきて一番凄いなと思ったのはキャストトラブルの少なさです。PE3号から12号を使った釣り全般で、本当にトラブルが少ない。飛距離も出るので、釣果につながっていると思います。これも誰が使っても感じてもらえると思います。

　ラインをけっこうアバウトに、多めに巻き込んでしまったときでも、トラブルがないんですよね。もちろん、基本としてはラインを巻き込む量の調整はしっかりやってほしいですけど。

佐藤　スプールエッジの形状、これが効いているんでしょうね。

佐野　20ソルティガで採用されたLC-ABS、具体的にはスプールのテーパー形状とスプールエッジの二段形状が思っていた以上に凄い。

瀬川　僕はショアの釣りでPE10号といった太いラインを多用するんですが、キャストのときの音が違うことにびっくりしました。以前はパタパタッという、どこかにラインが当たる音がしたんですけど、それがない。シューッという感じで気持ちよくラインが出ていく。最初のキャストで感じましたね、あっ、音がしないって。僕は20ソルティガでキャストトラブルは1回も経験していません。

佐野　スルッとか、シュルっという感じでラインが出ていくんですよね。

瀬川　ストレスなく釣りができること、トラブルに気を使わなくてよくなったということは大きい。釣りに集中できますから。

佐野　そのトラブルレス性能が8000番から20000番のラインナップすべて、細いラインから太いラインすべてで達成されているところも凄い。このことがこの1年間いろいろなところに遠征に行って、安定して釣果を得られた、ということに直結していると思います。

佐藤　キャストトラブルのなさはプロトモデルの段階からはっきりその良さが分かった感じでしたよね。これは使い続けてきたからどう、というのではなく、すぐに分かったことかも知れない。

瀬川　僕もすぐに分かりました。とくに問題がない、というか、ここをこうしたほうがいい、というところがほとんどないんですよね。

佐藤　魚を掛けるまでで感じたことでもうひとつ付け加えるなら、ウエイトバランスの良さかな。具体的には自重の数字よりもロッドにセットしたときに凄く軽く感じる。ロッドとの相性、兼ね合いに左右されることはあるにしても、少なくとも僕が使っている限りでは、持ち重りしないバランスがとてもいい。

瀬川　たしかに軽く感じます。以前のモデルでは、長めの遠征に行くと、釣りをしているうちにロッドを握る右手の中指がキャストしたときの衝撃で痛くなったり、腫れたりしたんですが、20ソルティガの場合はないですね。

佐野　魚を掛けるまでの話をすれば、感度が上がったことも確かだと思います。たとえばジギングでしゃくっているときに、魚のコンタクトが分かりやすくなった。僕はリールのギア、ベアリングの存在、ジグの動きなどを感じながら釣っていくのがジギングの基本と考えています。20ソルティガは全体的により滑らかになったことで、感度が上がっています。ジグの周りに魚がまとわりついてくる、その水流の変化がこれまで以上に感じやすくなっていますね。

一番凄いと思ったのは、キャストトラブルの少なさ（佐野ヒロム）

佐藤　魚がルアーの近くに寄ると水流の変化が起きますからね。分かりやすくなったのは、キャスティングでもジギングでも同じでしょうね。

瀬川　トップでも見えない状況などでは、魚がルアーを追っていることを感じることがよくあります。

佐野　追ってるよ、喰うよ、ドーンっという感じで、ヒットする前の変化がより分かりやすくなった。それから塗装が強くなりましたよね。僕はリールを凄く雑に扱うほうなんです。時間がないので手入れらしい手入れもしない。それで前のモデルは塗装がボロボロになってしまいましたが、新しいソルティガは1年くらいではほとんど変化なしですね。

瀬川　僕は磯からのショアゲームが中心なので、おふたりよりもどうしても傷むと思います。でも、今回のソルティガは傷みが少ないですね。

20ソルティガのリリースから約1年。発売以前から使い倒してきたフィールドテスターたちはより長く酷使し、現在に至っている。
その間にキャッチされたビッグフィッシュも数多い。
ここでは希代のモンスターハンター3名に、この1年間で使用した20ソルティガの印象を、鼎談形式で語っていただいた。

鼎談 佐藤偉知郎×佐野ヒロム×瀬川良太 20ソルティガを語る!!

Ichiro Sato & Hiromu Sano & Ryota Segawa

魚を掛けるまでの印象

佐藤偉知郎（以下、佐藤） 約1年間、20ソルティガを使ってきて、あらためて強く思うことは、ルアーを引いている感触が本当に軽い、ということ。ルアーを引いているときに引き疲れない。この性能は凄いと思いますね。

佐野ヒロム（以下、佐野） たしかに引き疲れない。最近は、キハダ、クロマグロゲームなどで、ポッパーに再び脚光が当たっているじゃないですか？ ポッパーはポッピングしているときはもちろん、とくに回収のときの引き重りがキ

瀬川良太

“HARD CORE EXTREME ROCK SHORE SPECIALIST”。ソルティガを片手に世界中を釣り歩くFishing Explorer。ニュージーランドの磯での40kgオーバーを筆頭に、キャッチしたモンスターヒラマサは数知れない。日本人離れした強いフィジカルにより展開する彼のスタイルは見るものを驚嘆させる。

佐野　ドラグワッシャーの数が増えているし、最大値が強くなっているのは確か。構造的に強くなっているのは間違いない。

佐藤　最大値が大きくなっているので、余裕が生まれているんですよね。

佐野　どんなレベルのアングラーでも、ドラグを上げるのは楽になっていると思いますよ。基本性能は完全に上がっているわけですし。

瀬川　お二人にお聞きしたいんですが、僕は磯からのショアゲームが多いこともあって、ドラグをガチガチに締めてファイトすることが多いんです。初期設定で20kgオーバーでやるのも好きなんですけど、このくらいの設定だと、初めにジャッと出てその後出ないということが多い。これはこのリールのドラグの性格なんでしょうか？

佐野　たしかに前のモデルよりじわっと出る感じはありますね。

瀬川　僕は5分以内のファイトがほとんどなんですが、ファーストランでも魚が急激に減速するようなイメージがあります。

大型魚でも不安感がない。多少無理しても大丈夫と思えるタフさ（瀬川良太）

佐藤　それはラインの放出が安定しているということじゃないですか？　最初だけガッと高い負荷が掛かり、ラインが出だしたら出続けてしまう、というのがダメなタイプのドラグ。そのタイプは切れやすいんです。魚も弱らない。でも、安定して負荷が掛かり続けていれば魚は弱るし、止まってくれる。

佐野　ワッシャーの枚数が6枚から14枚に増えたのでワッシャー1枚1枚に掛かる負荷が分散される。さらにより締め込めるようになっているので、ブレーキ性能が上がっているということでしょう。どれだけ枚数があっても締め込めなければ高負荷のブレーキ力は生まれないですからね。車やバイクに例えれば、しっかりしたディスクブレーキが出来ていて、さらにブレーキパッドの性能が上がっている、という感じかな。

佐藤　実際にはワッシャーのポテンシャルが凄く上がっていないと、いくらドラグノブを回して締めたところでドラグ値は上がらない。全体のキャパシティ、余裕が生まれるから、締めやすくなっているということなんじゃないかな。

佐野　だから調整する方法も異なってきているんですよね。つまり、以前のモデルよりハイスペックで、ピーキーな効き方になっているので、ドラグの調整がクイックに出来る。ドラグノブをちょっと回しただけで、かなり調整が効く。以前のモデルだと2周回さなければ効かない値を1周で効かせることができる、というイメージ。クイックにハイドラグに持っていける。

瀬川　ちょっと回せば効きますね。

佐野　もちろん実戦としては慣れが必要になると思います。前のモデルと同じ感覚で回すとドラグが効きすぎてしまう可能性があるので注意してほしいですね。でも、効かないよりは効くほうが絶対いい。効くものを緩めるのは問題ないですから。あとは自分で調整しながらやっていけばバッチリだと思いますね。

20ソルティガで叶えたいこと

瀬川　ショアでは20年に取り逃した、抱くことが出来なかった魚を獲りたいですね。60kgくらいあったと思うんですが、あのサイズのGTを獲りたい。あとはデイゲームでデカいGTを獲りたいですね。オフショアでは、20年の夏に初挑戦した竜飛崎沖のクロマグロ、モンスターサイズを獲りたいですね。幸運にも初挑戦で掛けることは出来た。自分のキャリアのなかでも一番大きい魚でしたが、獲れませんでした。

　いままでやってきたことも、それなりにキツいと思っていましたけど、クロマグロは魚のサイズのケタが違う。これまでの知識や経験では通用しないこともある。新しい世界を見て、また一歩ステージを上げたいな、と思っています。具体的にはもう一度、3ケタサイズと勝負したいです。

佐野　僕は例年通り、竜飛でモンスタークラスのクロマグロを狙っていきます。ヒラマサ、キハダもデカいのを追いかけます。クロマグロ、ヒラマサ、キハダ、それぞれのレコードを狙っていきたいですね。九州、三重、青森、こういった大型魚のいるフィールドでベストを尽くしていくつもりです。

ハイドラグでもカチッ、カチッ、と音がしてラインが出てくれる。もの凄い安心感です（佐藤偉知郎）

佐藤　僕は特別に目指しているサイズというのはないんですが、やりたいことはいろいろあります。新しい釣り方、もっと魚が反応するメソッド、ルアー、そうしたものを見つけ出したい、というのが理想としてあります。

　リールに限った話では、かなり以前の話になりますが、クロマグロキャスティングの釣りにどういうリールが欲しいですか？　とダイワさんに聞かれたときに答えた理想形が、だいぶ現実になってきていると思います。

　さらに理想を言えば、いまある形のリールではなく、まったく新しいリールが欲しい。近い将来、そういうものが形になれば、より釣りが面白くなると思いますね。こんな感じで、クロマグロゲームの新しい発見を探していく過程、その延長線上に、レコードフィッシュが現れてくれれば最高です。

（文中敬称略）

佐野ヒロム

相模湾キハダキャスティングにおけるトップランナー。豪快な釣りの中に繊細なテクニックを持ち合わせ、常に技術の向上に余念がない。日本国内はもとより、海外遠征の経験も豊富。20ソルティガで釣りあげた五島列島海域の超大攻32kg、熊野灘のキハダ55kgは記憶に新しい。

1年間ハードに使い倒してもギアやドラグなどにヘタりが出ない（佐野ヒロム）

魚を掛けてからの印象

瀬川　感覚的な話ですが、大型の魚をかなり高いドラグ設定で掛けても、ギシギシしたり、歪む感じがない。グッと溜めてから巻くときにタイムラグがなくて、すごくカッチリした感触があります。剛性感が高いっていうんですかね？　20年にトカラのショアゲームで60kgくらいのGTを掛けて、結果的に乱暴にファイトしたんですけど、まったく心配はなかった。残念ながらキャッチまでは至らなかったんですが、リールに対する不安感がなかった。多少無理しても大丈夫、という感覚がありましたね。

佐藤　魚を掛けてからの話なら、クロマグロゲームを前提にした場合、はっきり分かるのはドラグ性能が凄く向上しましたね。ひとつは音。カチカチというクリック音がしっかり出る。それがあるためにドラグを締めていってマックス近くまで行ったときでも、ラインが放出されていることが分かる。カチカチと明確に知らせてくれる。これは凄く安心感を与えてくれる。ほとんどフルロックに近い状況で、ロックしているかも、という不安を排除してくれることは精神的にとても大きいですね。

　19年にアイルランドで掛けたクロマグロは推定で250kgくらいでした。50分くらいファイトをしたんだけれど、そのときの安心感はこれまでで最強でしたよ。ファイトを見ていた周囲のアングラーも驚くくらい。ものすごいスローでもカチッ、カチッと、一回ずつ出る。ちゃんとゆっくりでもラインが出てくれる。

　ここぞというときにドラグが効いてラインが1㎝でも出るかどうかは、ラインが切れるかどうかの境目になる。こういう究極の状況で、カチ、カチ、カチ、とひとつずつ刻むように音を出してくれるわけですからね。感覚で設定したドラグ負荷が、感覚通りに効いてくれて、それが機能していることが分かる、しかもハイドラグで。ここが凄い。

　しかも、ドラグがヘタらない。20年は竜飛で70、80kgクラスを何本も釣ったけれど、全然ヘタらない。これまでは、もちろん1本では何ともないですけど、何本も釣ると少しはヘタりが出ていた。ギアのきしみや異音もない。

佐野　たしかにヘタりが出ないですね。以前のモデルなら、たとえば、デカいヒラマサをドシャローで10kgから20kgくらいのハイドラグでファイトすると、3本くらいでギアやドラグなどにヘタりが出て、オーバーホールに出していました。でも、それでOKだと考えていました。夢の魚を釣っているわけですから。ただ、20ソルティガはこのレベルを軽く超えてしまいましたね。

佐藤　ファイトスタイルにもよるんですけどね。クロマグロの例で言えば、10kgくらいのテンションでまず走らせて、ハンドドラグを併用して獲る、というスタイルの人は、感じにくいかも知れない。よりドラグ性能が向上したことを感じるのは、ファーストランを止めようとするファイトスタイルの人。僕はこちらなんですけど、なるべく最初から走らせたくない。モンスタークラスが相手なら、早い段階からハンドドラグと併用してドラグ負荷を上げていく。一気にドラグを入れるとラインが切れるので徐々にですけどね。相手が止まるところまで上げていくと、だいたい20kgくらいになる。

　以前のモデルでは20kgまで上げて、100mくらい走られると、スプールがロックしてしまうことが多かった。なぜスプールがロックするかと言えば熱を持ったものが急激に冷えるから。これを戻すには、状況によってはペンチを使ってドラグノブを回さなければいけないほど固まってしまう。僕は経験から冷える前にドラグを戻していたのでロックを避けていたけれどね。20ソルティガも構造上はロックしてしまう可能性はあるけれど、マックス値が30kgですから余裕がある。通常のファイトではスプールのロックはしづらいと思いますね。

佐野　以前のモデルはフット周りとか、けっこうボロボロになりましたからね。

佐藤　僕はあえて手入れをしない。長期テストをする感覚で使ったりもしているからね。それでも20ソルティガは見た目の変化がほとんどない。ハードに使って、一年経って普通に分かる部分では電蝕している部分はないし、塗装自体も下地処理から見直したおかけで圧倒的に強くなっているのは間違いないですね。

鼎談 佐藤偉知郎×佐野ヒロム×瀬川良太 20ソルティガを語る!!

Ichiro Sato & Hiromu Sano & Ryota Segawa

キャストのときの音が違うことにびっくりしました（瀬川良太）

お世辞抜きにして このリールはすべてがいい。 ワクワクするリールです（末永知也）

平戸周辺、上五島、そして玄界灘と、北部九州エリアをホームグラウンドとして釣行を繰り返す末永知也。初代ソルティガ-Z、10、15、そしてこの20と、すべてのソルティガを使って来た末永が、20ソルティガを約一年使い込んだ感想を聞いた。

「私がメインで使用しているのは、ジギングでは８０００-Ｈ。キャスティングでは１４０００-ＸＨです。20ソルティガの印象は、これまでのソルティガとはまったくの別物、ということ。劇的に進化していました。最も大きな変化は、とにかく壊れないということ。塗装も強いです。そして、巻きの滑らかさがとにかく凄い。雑音が入らず、巻き感度が上がっているので、ジグをしゃくっているときも、潮の変化や魚がチェイスしている気配、そしてジグの動きの些細な変化などをもしっかりと感じ取ることができました。キャストすれば飛距離が出て、嘘みたいですが、エアノットなどのライントラブルはこれまで一度もありません。キャストする、しゃくる、魚を掛けてファイトする、といった釣りの動作すべてが快適です。使っていて気持ちがよく、楽しくて、釣れそうと思えるので、モチベーションが保てます。本当に、ワクワクするリールです」

PRO STAFF
SALTIGA Spinning Impression

初代ソルティガZからこの20ソルティガまで、歴代のソルティガスピニングを使い続けて来た末永知也。
そして、千葉・外房のルアー船「宏昌丸」船長・吉清良輔。
それぞれの立場から、20ソルティガを1年使って来た感想を語ってもらった。

次は千葉県・外房勝浦川津港のルアー船「宏昌丸」船長の吉清良輔だ。

「率直な感想は、これまでのソルティガとはまったく違う、ということ。ボディの剛性が高く、巻き上げは本当に滑らか。トルクもあるので、なかなかのサイズの魚でもグイグイ浮かせてくれます。さらに、外房ではアンダーハンドキャストが一般的ですが、それを行う際もトラブルが本当に少ない。使っていて安心感があります。逆の言い方をすれば、リールのことを意識する必要がないということ。何か不具合があれば、そこばかりが気になってしまいますから。それは、海や魚としっかりと対峙できるということです」

宏昌丸に乗船してくるお客さんの反応はどうだろう？

「発売当初はやはりみなさん様子を見ていたようですが、最近は使うお客さんがかなり増えてきて、そういった方々からの評判は上々です。リールは最初の一年程度は何かしらの不具合が出ることが多いのですが、この20ソルティガに関しては、そういう話はまったく聞きません。これは本当に凄いことだと思います。それだけ完成度が高いということでしょう」

リールのことを意識する 必要がまったくない（吉清良輔）

信頼できるからこそ
勝負ができる
SALTIGA

モンスターとのファイトにおいて、絶対的な安心感・信頼感を満たす
「耐久性・パワー・回転・快適性」を徹底追求して完成させた20 SALTIGA。
過去のSALTIGA Spinningから大幅に性能をアップさせたこのモデルは
発売から現在まで、僅か1年足らずで、多くのアングラーの
BREAK YOUR RECORDを実現させてきた。
挑戦し続けるアングラーにとって、良き相棒と言えるモデルだ。

MAG SEALED
MQ
ATD

8000-P
PE3号～4号を標準とした近海ジギングスペシャル。ワンピッチやコンビネーションなど、あらゆるジャーキングテクニックに幅広く対応。

8000-H
高剛性モノコックボディ、大径タフデジギア搭載により、ハイギアとは思えない高い巻上トルクを実現。PE3号～4号を中心とした近海のキャスティングやジギングに高次元で対応。

10000-P
PE4号～5号を中心とした青物、マグロ狙いのジギングに。PE5号-300mの余裕のラインキャパは30kgアベレージの相模湾キハダエビングにもベストマッチ。

10000-H
PE5号標準のキハダ、ヒラマサキャスティングゲームにベストマッチ。相模湾キハダのトップランナー・佐野ヒロムにより、徹底的に鍛え上げられた近海大物スペシャル。

14000-P
PE5号～6号を使用する離島遠征ジギングにベストマッチ。20kgオーバーのヒラマサ、カンパチ、50kgクラスまでのマグロを視野に。

14000-XH
PE6号標準、最大PE8号での大型ヒラマサ、キハダ、GTゲームで求められるキャスタビリティ、トルク、スピードを最高バランスの形に。シリーズの中心的モデル。

18000-P
国内秘境、海外遠征ジギングスペシャル。PE6号～8号でのハードジギングを決して苦にすることがないモンスターハンターに贈る。

18000-H
超大型ヒラマサ、大型キハダ、大型GTを本気で追い続ける熱きアングラーに贈る。太糸パワーキャスティングゲームに最適設計されたPE8号-300m LC-ABSスプール搭載。"BREAK YOUR RECORD"のマインドを体現するモデル。

20000-H
クロマグロキャスティングのカリスマ・佐藤偉知郎完全監修。大型クロマグロを獲るために求められるラインキャパ、トルク、スピードの最高バランスを探求し、辿り着いた一つの完成形。

SALTIGA
ソルティガ　　ハンドルノブ L 交換可　ソルト対応

品名	巻取り長さ (cm/ハンドル1回転)	ギア比	自重 (g)	最大ドラグ (kg)	標準糸巻量 PE(号-m)	ベアリング ボール/ローラー	ドラグ ワッシャー数	ハンドル長 (mm)	ハンドル ノブ形状	価格 (¥)	JAN コード
8000-P	92	4.8	645	25	3-400、4-300	12 / 1	14	75	ラウンド	119,000	2 272735*
8000-H	111	5.8	655	25	3-400、4-300	12 / 1	14	80	エッグ	119,000	2 272742*
10000-P	98	4.8	645	25	4-400、5-300	12 / 1	14	75	ラウンド	119,000	2 272759*
10000-H	118	5.8	655	25	4-400、5-300	12 / 1	14	80	エッグ	119,000	2 272766*
14000-P	104	4.8	655	25	5-400、6-300	12 / 1	14	75	ラウンド	119,000	2 272773*
14000-XH	134	6.2	665	25	5-400、6-300	12 / 1	14	80	エッグ	119,000	2 272780*
18000-P	101	4.5	875	30	6-400、8-300	12 / 1	18	85	ラウンド	129,800	2 272797*
18000-H	131	5.8	885	30	6-400、8-300	12 / 1	18	85	エッグ	129,800	2 272803*
20000-H	143	5.8	890	30	8-400、10-300	12 / 1	18	85	エッグ	129,800	2 309516*

※当社のJANコードの頭7桁は、4960652からはじまるものと4550133の2種類があり、末尾1桁が先頭に記載されています。
※01・10・15 SALTIGAとのスプール・ドラグノブ・ハンドルアームの互換性はありません。
※巻糸量は目安であり、メーカー・アイテム・テンションにより異なります。

20SALTIGA SLPオプションパーツ

SALTIGA SPOOL
各番手ごとに用意されているスプール。純正色に加え、写真のゴールドモデルの2色展開。価格：22,300～25,700円

SLPW LOW DRAG TUNE SPOOL
あえてドラグマックス値を下げ、5～10kgの調整を行いやすくしたモデル。写真のネイビーブルー、ゴールドの2色展開。8000番サイズ。本体価格：22,300円

RCS アルミエッグノブ
ファイト中に力が入りやすいパワーファイト向きのノブ。写真のゴールド、ネイビーブルーの2色展開。本体価格：7,000円

RCS アルミラウンドノブ
操作性にこだわり、形状、サイズを追求したノブ。ジギングに最適。写真のネイビーブルーとゴールドの2色展開。本体価格：7,000円

SLPW POWER HANDLE SET
ノブとハンドルがセットになったモデル。85㎜（本体価格20,000円）、95㎜（本体価格22,000円）の長さが用意されている。ハンドルのみ（75・80・85㎜）本体価格8,000～8,500円

※「MONOCOQUE」「MQ」「MAGSEALED」「MAG SEALED」は、DAIWA（グローブライド株式会社）の登録商標です。
※価格はメーカー希望本体価格（税抜）です。

絶だった。

「すぐに偉知郎さんがサポートについてくださり、そしてダイワスタッフからも、ロッドのパワーは十分あるから安心しろ。ただ、立てすぎるな、とアドバイスがありました。魚が真下に入った残り30mからは正直いって本当にキツかったのですが、このロッドではGTやヒラマサなど数多くの魚を遠征で釣ってきてそのポテンシャルは十分に理解していましたので、あとは自分の気持ちだけ。絶対に最後までシングルファイトで獲る！　と心に決め、気合を入れ、ドラグを締め、そしてロッドを起こしました」

いつか自分の体重よりも重い魚を釣ってみたい――。それが彼の夢だった。そして、青森のクロマグロは、大きな憧れだった。〝BREAK YOUR RECORD〟。夢を掴み獲れ。

ウォーリー真は、「ソルティガ エアポータブル」と「20ソルティガ スピニングリール」とともに、見事に夢を叶えたのである。

Fishing Trip

贅を尽くす夢の青森クロマグロ遠征

憧れの魚を釣る。夢の魚を釣る――。
遠征は、アングラーの夢へと大きく近づくための
ひとつの舞台である。
2020年8月。ひとりの若きアングラーが、
愛用のロッド「ソルティガ AP C78-10」で、
大きな夢をひとつ叶えた。

「まさか自分がこんな大きなクロマグロを釣ることができるとは、夢にも思いませんでした」

その釣行を振り返り、彼はそう話し始めた。ダイワ・スーパーフレッシュアングラーのウォーリー真だ。彼は幼少の頃から釣りに親しんできた根っからのアングラーで、磯からのヒラスズキやヒラマサ、オフショアのヒラマサ、トカラのショアGTやイソマグロ、沖縄のオフショアGT、ブラジル・アマゾンのピーコックバスなど、若いながらも経験豊富。とくにここ6〜7年は、オフショアの釣りに力を注いでいるという。

マグロ類に関しては、20〜30kgのキハダの実績はあるものの、大型のクロマグロだけはまだ釣ったことも狙ったこともなかった。そんな彼が、ついに憧れのクロマグロをキャッチしたのである。

そもそもこのとき彼は、2021年のカタログモデルとして青森を訪れていた。それが、せっかく青森まで来たのだからと、佐藤偉知郎さん（メインの撮影は偉知郎さんの釣行）が、チャンスがあったら投げていいよ、と言ってくれたのである。

「二日目でした。その日は時折単発で跳ねる程度で、船は何度も全速でそれらを追いかけたんですが、なかなか間に合いませんでした。そんななか、今日イチというタイミングが訪れ、偉知郎さんのプラグにドバンと出たんですが、掛からなかったんです。その直後、2〜3尾のクロマグロが右から左へ泳いで行くのが見えました」

ウォーリーはその進行方向に「ソルティガ・ポップ☆スター」をすかさずキャスト。

「緊張感はもうマックスでした。そんな状況でも、ソルティガAPC78-10と20ソルティガ2000-Hは、ライントラブルを起こすことなくルアーを放ちました。3回目のアクションを行った直後、まるでミサイルのような巨体がポップ☆スターに襲いかかるのが見えました」

もの凄い勢いでラインが出ていく。魚が魚だけに、ファイトは壮

18年ダイワスーパーフレッシュアングラー。千葉県在住だが、足繁く玄界灘や壱岐に通う、生粋のビッグゲーマー。

AIRPORTABLE

for Casting/Jigging

国内・海外を問わず、遠征釣行でアングラーを悩ませる航空機の積み込み制限。ソルティガエアポータブルは、そんな悩みを解消するために開発された、遠征対応のマルチピースオフショアロッドだ。携帯性や曲がりの美しさは言うに及ばず、強度の確保を徹底的に追求した各アイテムは、高強度で強い粘りを見せるブランク素材HVFナノプラス、そのブランクの最外層に施したX45、そしてVジョイントαで完全装備。1ピースロッドに引けを取らないスペックで安心の遠征釣行を演出する。

AP C84-4 NEW

PE4号、MAX90gのルアーで狙うヒラマサ、キハダに最適。しなやかなティップは小型・中型プラグのキャスタビリティ及び操作性に長け、ロッド全体でキャスト時のキックバックを抑えると同時に魚の引きを吸収。体力に自信のない方にもおすすめしたいモデルだ。

AP C83-5 NEW

PE5号をメインとしたキハダやヒラマサの誘い出しなどに最適なモデル。キャストウェイトは最大110gに対応し、柔軟なティップはダイビングペンシルからポッパーまで幅広いプラグに適応。遠征だけでなく近海のキャスティングゲーム全般に使える高汎用モデル。

AP C82-6

キャストウェイトMAX130g、PE6号がメインのキャスティングロッド。レングスはロングキャスト対応の8.2フィートに設定し、しなやかなティップと強靭なバットを融合。ヒラマサ、キハダ狙いにおけるダイビングペンシルの操作性にも優れる。

AP C80-8

大型のヒラマサやGTをターゲットとしたキャスティングモデル。キャストウェイトは最大160g、PE8号に対応する。ハイパワーロッドでありながら一日振り続けても疲れないバランスを持ち、様々なタイプのプラグを用いたトップウォーターゲームを満喫できる。

AP C78-10

キャストウェイト180gまで対応、PE10号をメインに大型マグロやGTなどを狙うキャスティングモデル。そのためのパワーを持たせながらもアングラーの負担を極力軽減するためブランクの弾性を落とし、レングスはしっかり振りきれる7.8フィートに設定。

AP J59S-3 NEW

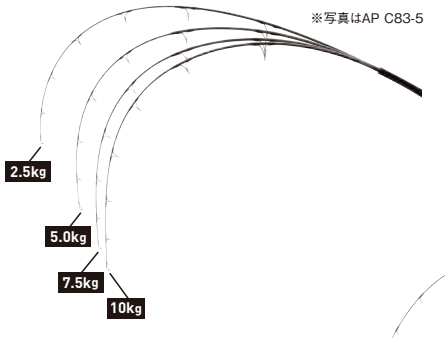
180g前後のジグにPE3号を組み合わせた最もオーソドックスなジギングに対応。近海のブリや中型ヒラマサに合わせたパワー設定のため、1本忍ばせておけば遠征先でのゲームの幅が格段に広がる。またソルティガ特有の強いブランクは大型がヒットしても安心。

AP J58S-4 NEW

220g前後のジグにPE4号の組み合わせで狙うヒラマサやカンパチに最適。このタックルでもスムーズなワンピッチジャークの継続を可能とすべく、ショートレングス、低弾性ブランクの組み合わせで負担を軽減。もちろん大型魚を短時間で仕留めるパワーも秘めている。

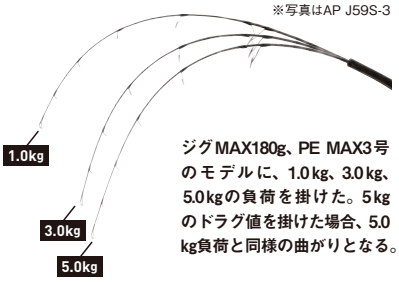
AP J56S-6

MAX300gジグ、PE6号までの組み合わせで狙うディープエリアでの大型カンパチやマグロ、巨大根魚を想定。ジギングロッドとしてはかなりハイパワーだが、レングスをショート化し、しなやかなテーパーにすることでジャークやファイト時の負担を大きく軽減。



キハダ狙いなどに最適なAP C83-5。最大負荷10kgでこの曲がり。その曲がり込みと、ロッドの反発力（戻り）で、ファイト時にプレッシャーを与えられる。

圧倒的な強度ときれいな曲がりを生み出すV-ジョイントα。軽く、強く、ワンピースロッドに迫る使用感を実現。



ジグMAX180g、PE MAX3号のモデルに、1.0kg、3.0kg、5.0kgの負荷を掛けた。5kgのドラグ値を掛けた場合、5.0kg負荷と同様の曲がりとなる。

ガイドには強度と太糸対応を重視したMN SGガイドを搭載。抜けの良さが飛距離を生む。※ジギングモデルはKガイド。

リールシートはオーソドックスなDPSシート。濃紺とゴールドのカラーリングでSALTIGAリールとの一体感も演出。

ソルティガ エアポータブル

品名	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	ジグ・ルアー重量(g) ジギング	ジグ・ルアー重量(g) キャスト	ライン PE(号)	カーボン含有率(%)	価格 (¥)	JAN コード
C84-4	2.54	3	100	325	2.4/17.8	—	MAX90	MAX 4	92	60,000	3 067624※
C83-5	2.51	3	99	330	2.6/17.8	—	MAX110	MAX 5	92	60,500	3 067631※
C82-6	2.49	3	97	355	2.7/18.4	—	MAX130	MAX 6	92	61,000	2 318143※
C80-8	2.44	3	94	365	2.8/18.9	—	MAX160	MAX 8	99	61,500	2 318150※
C78-10	2.34	3	91	410	2.8/18.9	—	MAX180	MAX 10	99	62,000	2 318167※
J59S-3	1.75	2	113	210	2.7/11.2	MAX180	—	MAX 3	78	55,000	3 067679※
J58S-4	1.73	2	111	215	2.8/11.9	MAX220	—	MAX 4	81	55,500	3 067686※
J56S-6	1.68	2	103	320	3.0/13.9	MAX300	—	MAX 6	91	56,000	2 318174※

※竿径は、竿先から最も近く、部品・糸巻きのついていない外径、( )内は素材先端部の外径です。元径は、竿種により測定部が異なるためWebにてご確認ください。 ※価格はメーカー希望本体価格(税抜)です。 ◎赤文字は、3月発売予定の新製品です。

継ぎ目を感じさせない強度と軽さ！

Fishing Trip×SALTIGA AP

ウォーリー真 Impression

Whalley Makoto

見事に「クロマグロを釣る」「自分より重い魚を釣る」という
夢を叶えたダイワ・スーパーフレッシュアングラーのウォーリー真。
そのとき相棒として手にしていたのが、マルチピースロッド
「ソルティガ AP C78-10」だった。
ここでは、そのインプレッションを語ってもらった。

ウォーリー真が青森のクロマグロ狙いで使用したロッドが、遠征釣行などの際に便利なマルチピースモデル「ソルティガ エアポータブル」だ。なかでも「C78-10」は、シリーズ中最もパワーのあるモデルである。3本継ぎであるにもかかわらず、Vジョイントα、HVFナノプラス、X45といったダイワが誇る最先端技術の結集により、ラインはPE10号対応、キャストウエイトマックスも180gとなっており、大型ヒラマサ、GT、キハダ、そして今回のクロマグロといった、近海・遠征のあらゆる大型魚をもターゲットとしている。

「このロッドの仕舞寸法はたったの91cmと非常に短いので、飛行機や鉄道を使った遠征などの釣行はもちろん、クルマでの釣行においてもかなり重宝します。私の大のお気に入りです」

最近では飛行機の手荷物預け時はもちろん、宅配便でも荷物の長さの制限が設けられている。さらに、飛行機の機種によっては従来は手荷物預け可能だったワン&ハーフのキャスティングロッドやワンピースジギングロッドが預けられないことがある。そんな遠征時等の荷物の長さ制限の不安や不満を解消してくれるロッドが、この「ソルティガ エアポータブル」シリーズなのである。

「ソルティガ エアポータブルは、マルチピースロッドでありながら軽量でパワーも十分。ベンディングカーブも一般的なワン&ハーフのキャスティングロッドと遜色ありません。これまでGTやヒラマサなどそれなりのサイズの魚を何尾も釣りましたが、まったく不安はありませんでした。そのポテンシャルは理解していましたので、クロマグロを掛けても絶対的な信頼がありました。ただ、さすがに今回の魚はサイズがサイズでしたので、ロッドを立て過ぎないように注意しながら勝負しました」

3本継ぎであるため、マグロ専用ロッドのように思いっきり立ててファイトできるかといえば、それは正直難しい。だが、マルチピースであるということを理解した上で適切なファイト方法を行えば、十分にこのようなサイズの魚とも勝負可能である。

釣り具を正しくお使いいただくために

釣りを安全に楽しんでいただくために、
商品に添付しております『取り扱い説明書』を必ずお読みください。

■安全にお使いいただくために
お使いになる人や他の人への危害及び財産への損害を未然に防止するため、取扱説明書や本体ラベルに表示された内容は必ずお守りください。取扱説明書及びラベルのマークの意味は次のようになっています。

警告　この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

注意　この表示は「人が損害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

釣 竿(一部玉網を含む)

使用方法に関する事項

危険 感電注意

●電線との接触による感電
高圧線・線路・鉄橋等の電線による感電に注意して下さい。
釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等に接触、または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣り場を移動する時は竿をたたみ、高圧線・線路・鉄橋等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。
●落雷による感電
落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。落雷による感電死を招くおそれがあります。
●釣り場以外の電線による感電
釣り場以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。
釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。感電による感電死を招くおそれがあります。

警告

●キャスティング(投げる)時の注意
キャスティング(投げる)の時は、周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ルアーフック、オモリ等が人に当たると非常に危険で、重大事故に繋がるおそれがあります。

注意

●固着のゆるめ方
釣竿の固着(継ぎ部が食い込んで外れない時)は、継目の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに逆方向へヒネりながら押して(振出竿の場合)、継目をゆるめてください。その際、一気に力を入れると釣竿の継目に手をはさみ、けがをするおそれがあります。
●根掛かりの外し方
根掛かり(水中、陸上での障害物に仕掛けが絡みはずれない状態)した時は、無理に竿をあおらないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んできて、けがをするおそれがあります。根掛かりは、出来るだけ、糸を手にとって引っ張って糸を切ってください。その際、糸で手を切ることがありますので、手袋やタオルで手を保護してください。太ハリスご使用の場合は、手で切るのが危険な場合がございます。十分にご注意ください。
●破損時の取り扱い方
使用中、万一釣竿が破損(折れ、割れ、欠け、剥離)した場合、破損した個所や破片で手などにけがをするおそれがあります。

注意

●自重は素材・塗料・部品等により、ばらつきますので標準自重で表示しております。
●全長は合わせの深さ等により、ばらつきますので標準全長で表示しております。標準自重・標準全長、その他の仕様も公正競争規約に基づく表示をしております。
●竿は一本一本手作業で仕上げられています。そのため商品により多少の色、質感のバラツキが生じる場合がありますのでご了承ください。
●元竿表示は、元節の元端面位置の素材外径を表示しております。但し、磯竿、渓流竿は元端面より竿先側に50mmの位置、鮎竿は元端面より竿先側に100mmの位置の素材外径を表示しております。

膨張式ライフジャケット(自動・手動膨張式)

使用方法・保守・点検・保管・お手入れに関する事項

危険

●本製品は着用者の頭部を水面上に出す浮力を持ち、呼吸をしやすくする機能がありますが、生命の安全を保証するものではありません。
●浮力体となる気室に傷をつけないでください。特に針には注意してください。気室に穴が開きますと、ボンベから充填したエアーが漏れ、本来の機能をはたす事ができません。着用中の転倒や針掛かり等で、気室や膨張装置に傷や破損が見られる場合は直ちに確認し、エアー漏れがあった場合は、直ちに使用を中止し、新しいものと交換してください。
●自動膨張式ライフジャケットは、落水後にセンサーが感知して膨張する仕様ですが、これは補助的な機能でありお客様の安全を素早く確保する意味で、落水時は手動にて手作動紐を引き膨張させてください。
●膨張装置を自動・手動にて一度作動させた場合は、ボンベ等の膨張装置のパーツを必ず交換して使用してください。
●お客様の安全を考慮し、ご購入後1年を経過した場合、ボンベ等の膨張装置のパーツを交換してご使用ください。

警告

●この救命衣を着用する場合は、必ず着衣の一番上に着用してください。救命衣の上にバッグ等を着用したり、着衣の下(内側)に着用しますと、自動膨張装置の作動が遅れたり、膨張するスペースが制限される等で、本来の機能が阻害されるおそれがあります。
●煙草などの火気に近づけたり、針や突起物等の鋭利な物による突き刺し・引っ掛けなどの破損には十分注意してください。着用前に鋭利な物(ピンオンリール・ピン付バッジ・ハサミ等)は取り外してから使用してください。
●磯場での使用はお避けください。

注意

●生地・縫製部等に損傷・劣化等による穴が開いていないか、未使用のボンベかなど事前点検を十分に行ってください。
●ご使用前に必ず添付の取扱説明書をよくお読み頂き使用前点検を必ず行ってください。
●本製品を湿気の多い場所や、雨ざらしの場所・船上等で保管・放置しますと、センサー(スプール)が湿気を感知し自動膨張しますので、保管時・着用しない時は、乾燥した場所で管理してください。また、直射日光・光源の当たる場所、薬品・溶剤・油と接触する場所や熱源等の高温になる場所、ネズミ等の害を受ける場所では保管しないでください。
●丸洗いの洗濯はしないでください。汚れた場合は、取扱説明書に従ってメンテナンスを行ってください。

釣　糸

使用方法に関する事項

注意

●金属糸は、電線に接触すると感電の原因となります。
●釣糸を切る時は、ハサミなどを使用してください。手や歯で切ると、けがをする恐れがあります。

廃棄に関する事項

注意

●釣糸は、環境保護の観点から釣り場に捨てずに必ず持ち帰って処分してください。

スピニングリール

使用方法に関する事項

注意

●キャスティング(投げる)の時は、ベールを起こすことを忘れないでください。仕掛けが切れたり、思わぬ方向にとんで、周囲の人にけがをさせるおそれがあります。
●キャスティング(投げる)の時は、ストッパーをONにして投げてください。OFFにして投げると、ハンドル等が逆転し、手に当たりけがをするおそれがあります。
●ストッパーのあるリールは、ストッパーをOFFにして釣っていると、ハンドル等が逆転し、手に当たりけがをするおそれがあります。
●糸が勢いよく出ている時は、糸にふれないでください。糸で指を切るおそれがあります。
●自重は素材、表面処理、部品等により、バラツキが生じる場合がありますのでご了承ください。

注意

●回転しているハンドル、ローター等には、触れないでください。けがをするおそれがあります。
●レバーブレーキ付きリールでは、レバーを操作する時、指を伸ばすと回転しているローターに当たりけがをするおそれがあります。
●レバーブレーキ付きリールでは、ローターが逆転している時、レバーを押さないでください。ストッパーが急に掛かり、破損し、けがをするおそれがあります。

両軸受リール

使用方法に関する事項

注意

●糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれてけがをするおそれがあります。
●ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをするおそれがあります。

注意

●ストッパーのあるリールはストッパーをOFFにして釣っているとハンドル等が逆転し、手に当たりけがをするおそれがあります。
●糸が勢いよく出ている時は、糸にふれないでください。糸で指を切るおそれがあります。
●自重は素材、表面処理、部品等により、バラツキが生じる場合がありますのでご了承ください。

注意

●回転しているスプールには触れる場合は充分に注意してください。けがをするおそれがあります。

ロッドケース・バッグ・バッカン

[ロッドケース・バッグ・バッカン全般]使用方法・保管に関する事項

注意

●炎天下の車内、直射日光のあたる場所、蛍光灯の近く、高温多湿の場所に長時間放置することは避けてください。変形、変色、劣化することがあります。
●お手入れの際は、濡れた(真水)柔らかい布で、汚れを軽く拭き取って日陰で自然乾燥してください。
●商品を保管する際は、風通しが良く、湿気の少ない冷暗所で形を整えて保管してください。
●長期間経過した商品は、使用頻度にかかわらず経年劣化による素材のはがれ・シワ・亀裂などが発生し、機能低下することがあります。あらかじめご了承ください。
●水際で直接水を汲むのは引き波に引かれ危険ですので避けてください。
●重い物を入れて運ぶと本体が変形したり、ハンドルの離脱や切断、底の破れ等による破損の恐れがありますのでおやめください。
●片方だけのハンドルを使用して重い物を運ぶとハンドルの離脱や切断の原因となることがあります。必ず、左右のハンドルを持ち、同時に使用してください。

釣　針

使用方法に関する事項

注意

●針先は危険です。取り扱いには注意してください。
●釣り以外の目的に使用しないでください。
●サクサスフックは、通常の塗装及びメッキフックに比べ、針先が大変鋭く、表面が滑るため刺さり易くなっています。怪我防止のため、取り扱いには十分ご注意ください。

保管に関する事項

注意

●子供または幼児の手の届かないところに保管してください。

廃棄に関する事項

注意

●釣針は、釣り場に捨てると危険ですので必ず持ち帰って処分してください。

疑似餌(ハリあり)・疑似餌(ハリなし)

使用方法に関する事項

警告

●針先は危険です。取り扱いには注意してください。
●キャスティング(投げる)時は、周囲の安全を確かめ、危険のないことを確認してください。周囲に人がいると針が刺さり、けがをさせるおそれがあります。
●釣り以外の目的に使用しないでください。

保管に関する事項

注意

●子供または幼児の手の届かないところに保管してください。
●屋内であっても直射日光の当たる場所、炎天下の車内等、高温になる場所を避けて保管してください。
●プラスチック製のものの上に放置すると、変形させるおそれがあります。

グローブライド株式会社
〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16
www.globeride.co.jp

お客様センター
0120-506-204(無料)
受付時間:9時～17時(土日祝日は除く)
携帯電話からもご利用いただけます

www.daiwa.com/jp/

BE EARTH-FRIENDLY

※当社のJANコードの頭7桁は、4960652からはじまるものと4550133の2種類があり、末尾1桁が先頭に記載されています。
※このカタログに掲載されている価格はすべてメーカー希望本体価格です。(消費税は含まれておりません。)
※写真の色は印刷などの関係により実際の色と多少異なる場合があります。
※仕様、価格は改良等のため予告なく変更することがあります。
※このカタログに表示されている重量・サイズ等は仕様標準値を掲載しています。

このマークのある釣竿は、全国釣竿公正取引協議会が「釣竿の表示に関する公正競争規約」にのっとって、責任をもって認定したものです。

このマークは(公財)日本釣振興会が、日本の“釣り”と“釣り環境”をよりよく発展させるため設けた“釣り振興事業資金拠出”に協力している商品についております。

LOVE BLUE 地球の未来を つり環境ビジョン　このマークの表示された商品の売り上げの一部は、釣りの未来、釣り人の未来へつながる環境事業である「つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE事業」の資金として活用して参ります。

SALTIGA 2021年3月10日発行

Column

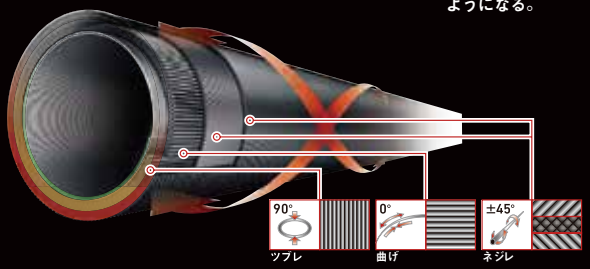
夢を掴み獲るためのROD TECHNOLOGY

X45 / X45 FULL SHIELD

［X45 / X45フルシールド］

キャスティングやジャーク時、フッキングなどの基本動作の中で発生するロッドのネジレ。そんなネジレを防止するのに、ダイワが長年の研究から結論づけたのが「45°」。X45は、パワー・操作性を向上させる最適構造。従来構造（竿先に対して0°、90°）に、ダイワ独自のバイアスクロス（±45°に斜行したカーボン繊維等）を巻くことで、ネジレを防ぎ、パワー・操作性・感度を飛躍的に向上させるテクノロジーだ。さらにキャスティング、アクション、フッキング、ファイトなどのダイナミックな動作の中で発生するネジレを徹底的に排除するのがX45フルシールド。ネジレが最も発生しやすいブランクの先端から、45°のカーボンバイアスクロスで最外層から締め上げることで、ネジレ剛性が飛躍的に向上し、ロッドの持つ本来の性能を引き出すテクノロジーだ。

ブランクの外周をバイアスクロス（±45°）で巻き上げることで、ロッドブランクの性能が飛躍的に向上するX45。先端からバットまでフルに巻くX45フルシールドなら、更なるキャストアキュラシーが期待できるようになる。



V-JOINT α

［V-ジョイントアルファ］

ワンピース構造に限りなく近づけるために、ジョイント部のひずみをなくし滑らかに曲げるテクノロジー、V-JOINT。そのV-JOINTのジョイント部の強度をさらにアップさせたのが最新技術のV-JOINTαだ。これは、ナノプラスを含む高強度素材とダイワ独自の超高精度ロッド設計製造テクノロジーにより、さらに強く、軽く、スムーズな曲がりを実現させたもの。これにより、大型魚狙いにおいては、より安心してやり取りを行うことができ、さらにスムーズに曲がることで飛距離アップが期待できる。そして軽くなることでロッドの操作性もアップさせられるテクノロジーだ。SALTIGA C、APに使用。

ロッドの継ぎ目は、どうしてもスムーズに曲がりにくくなるが、V-JOINTαなら美しい曲がりが実現。

AGS

［エアガイドシステム］

軽量・高感度のエアガイドシステム『AGS』。カーボンフレームの軽量性は、ロッドブランクの本来の性能を引き出し、チタンと比較して約3倍の剛性をもつカーボンは、ラインから伝わる魚からのコンタクトを、より明確にブランクに伝えてくれる。

SALTIGA SJ AGSモデルで採用されているAGSガイド。高感度性能により、ジグにまとわりつくようなアタリも捉える。

HVF NANOPLUS

［エイチブイエフ ナノプラス］

現在のSALTIGAロッド、全機種に採用されているブランクテクノロジー。レジンの量を減らし、代わりにカーボン繊維の密度を高めた高密度HVFカーボンは、粘りや強度を重視したロッドに最適な素材。さらに東レのナノアロイ®テクノロジーを、ダイワ独自の製法で組み合わせることで、さらなる高強度化、軽量化を実現している。

SALTIGAロッドの全モデルに採用されているHVFナノプラス。粘りと強度が上がるブランク素材だ。

SALTIGA

DAIWA FISHING TACKLE 2021

www.daiwa.com/jp/

GLOBERIDE

A Lifetime Sports Company

PULL
GORE-TEX

Feel Alive.

最高の瞬間を感じる。

五感をかけぬける、爽快。
全身にひろがる、感動。
すべてのイノベーションは、最高の瞬間を感じるために。
私たちはつねに新たな挑戦をつづけ、
フィッシングを通して
人生を心躍るものへとかえていきます。